



V2k (ボイス・トゥ・スカル) 2017/03/28

ターゲット個人協会 – 著者: ゲイリー・オーウェンズ

ゲイリー・オーウェンズ氏がまとめた記事を書き、技術を解説しました。私たちはインターネット上のあらゆる情報源を利用して、技術を解説するために必要なあらゆる情報を収集し、まとめました。情報源は下部に記載しています。漏れている情報があればお知らせください。修正いたします。

音声から頭蓋骨への伝達は複雑な問題です。誰も解明していないのは、それが1つの事柄ではないからです。さまざまな技術で構成されています。V2kを理解するには、テキストをすべて読む必要があります。幸いなことに、答えはそこにあり、明快です。

ニューロフォンとマイクロ波オーディオ効果が、マイクロ波放射ビームや放送などの現代の電気通信データ配信システムと連携して、ギャングストーキングや知的財産権 (IPR)の窃盗における V2k (頭蓋骨への音声)装置としてどのように使用されるか。

ニューロフォンの発明と特許:

1958年、パトリック・フラナガン博士は米国でニューロフォンを発明し、ニューロセプションによるその動作プロセスと名付けました。米国特許庁に手紙を書いて、1968年7月16日に付与された特許番号3,393,279と1972年3月7日に付与された特許番号3,647,970を注文すれば、彼のニューロフォン特許2件のコピーを入手できます。



オリジナルのニューロフォン特許第3,393,279号の権利は、ニューヨーク市のIntelectron, Inc.が所有しています。FDAは、この製品が低周波RF搬送波を使用しているため、販売を許可しません。FDAは、RF放射の生物学的影響について、最近非常に敏感になっています。実際、国家安全保障局は、この特許申請を最高機密命令の下に置きました。

パット・フラナガンは発明家です。彼の元の特許権は別の会社が所有しており、FDAがその製造を禁止していたため、フラナガンは特許番号 3,647,970 で保護されている 2 番目のニューロフォン装置を開発しました。この装置は RF 搬送波を使用せず、高電圧も必要としません。

フラナガンは、素晴らしい技術的貢献を果たしました。1968年2月、彼は人間の言葉をイルカの言語に翻訳し、またその逆も行う装置の特許を申請しました。これは、ハワイのオアフ島沖の小さな島のラグーンでイルカを対象にした研究の結果でした。驚くべき介入の前に、30語の語彙が発見されました。タフツ大学による米国海軍向けのニューロフォンの初期バージョンの研究は、1966年にまで遡ります。

この装置は、そのアプローチがあまりにも革新的だったため、彼はこれを特殊な音声処理装置として特許申請した。特許申請から 6 か月後、NSA の命令により、商務省は 1968 年 8 月 28 日付の秘密命令第 756,124 号でフラナガンの新装置を指定した。痛ましい侵害行為として、NSA は特許を封印し、国家安全保障命令により、パトリックはこの発明に取り組むことはもちろん、この発明について話すことさえも禁じられた。命令では、この発明は国家安全保障上の利益のために抑制されていると述べられており、さらに、権限のある政府代表者以外の者にその動作特性を明かした場合、反逆罪で裁かれ、銃殺される可能性があるとして述べられていた。つまり、彼らはそれを盗んだのだ! 言うまでもなく、彼はこのシステムに非常に失望した。

5年後、300件近くの発明を経て、彼の発明の公開を求めて3つの法律事務所が訴訟を起こし、またも厳しい法廷闘争の末、秘密保持命令と開示禁止命令は取り消され、1972年3月7日に特許番号3,647,970が付与されました。この音声処理特許は、ニューロフォンの現在のバージョンの回路として実際に使用されています。

こうして、勝利を収めた裁判で、NSA によるデバイスの秘密保持と押収は却下され、魔法のランプから精霊が飛び出してしまったのです!



ニューロフォンが人々を標的にしてアイデアを盗み、彼らの生活を破壊するためにどのように使用されているかを明らかにする唯一の情報、元の特許にあります。鍵となるのは低周波の RF 搬送波です。元の特許にはこの情報が含まれていましたが、NSA が 10 年間開発している間は秘密にされていました。NSA がニューロフォンの特許の 2 番目のバージョンを許可したとき、RF 搬送波に関する情報が発信されました。

そこで、ニューロフォンという、誰かの心にビーム送信できる可能性と、MI6 のバリー・トローワー博士が私に説明したマイクロ波聴覚効果のマイクロ波ビーム技術を組み合わせると、フラナガンは、音が頭の片側からのみ聞こえるようにニューロフォンの電極を配置することができ、多くのターゲット個人はこれを理解するでしょう。これは、位相がずれた 2 つのトランスデューサーがマイクロ波搬送ビームを集中させ、頭の同じ側にあるためです。これは、おそらく同じニューロフォン ソフトウェアを実行して、この効果を生み出すことができる RFID インプラント (TIA の Web サイトには RFID インプラントの開発に関する完全なレポートもあります) があるためです。

TI が聞く、頭の中で耳鳴りのように聞こえる高音の笛のようなノイズは、変調された出力マイクロ波信号が頭に当たったもので、エミッターのゲインです。マイクロ波聴覚効果の聴覚症状には、絶え間ないブザー音、クリック音、いわゆる「耳鳴り」などがあります。長時間使用すると、ノイズの大きさや変化により、集中力の欠如、ストレス、強いイライラを引き起こします。したがって、これは明らかにギャング ストーカーによって扇動された拷問の一種であり、私たちはこれを集団訴訟に加えるつもりです。

Voice to Skull は、超能力者、宇宙人による誘拐被害者、魔女、精神分裂症患者、神の声が聞こえる人、頭の中の声に言われたから人を殺す人、地球外生命体と話せると主張する人、幽霊とコンタクトして悪魔と頻りに連絡を取る人など、増加している状況に光を当てています。これらの人々は、ターゲットにされたすべての市民が世界中のすべての政府に対して起こす千年紀の訴訟の対象にする必要があります。

この情報に現代のテレコムデータ配信システムを加えると、誰でも作ることができます。システムを自分で作る方法のビデオをすぐに追加し、ニューロフォンも含めます。

自分でリンクを構築します。Targeted Individuals Association から情報を公開するという考えは、情報が公に公開されている場合、それをマスコミや裁判所に公に示すことができるというものです。私たちはそうするつもりです。

これが公表されれば、特別委員会の聴聞会を強制し、治安機関やその他の組織が引き起こした大惨事に対する予算を撤回し、その資金を、もはや国民を代表しない制御不能な治安機関によって生活や思想を破壊された標的の個人に支払うのに十分であると考えます。

彼らはメイソンを代表しており、米国と英国の治安部隊は体制側のメイソンの私兵です。メイソンはギャングストーキングの背後にいて、麻薬の売人や犯罪者を使って汚い仕事をさせています。私たちは彼らを訴えるつもりです、私たちに加わってください。

パット自身の言葉：

「ニューロフォンに関する発見の多くは公表されていません。時には、この装置は 1 人または複数の人物の間で完璧なテレパシーによるコンタクトを刺激し、しばしば驚くべき結果をもたらしました。これらのテレパシーによる出来事は嘲笑を恐れて秘密にされていました。」

ニューロフォンのオリジナルの文献には、「パトリック・フラナガン博士の脳同調のための革命的な超音波神経刺激装置」と記載されています。これは、脳同調に関するマインドコントロール実験のためにニューロフォンを NSA/CIA が使用したことに関係する別の主題です。

ニューロフォン

これを読むときは、この14歳の少年がステレオプレーヤー、筋肉をリラックスさせる装置、テレビの部品、テレビアリエルからニューロフォンという装置を作ったことを心に留めてください。私も子供のころ電子機器を分解して何かを作ったことがあるので、このことには共感できます。しかし、この場合、彼が装置を発明したとき、軍が特許を差し止めたという結果になりました。今では、DARPA が他の多くの組織とともにそれを取り上げたことを知っています。少年自身は、発明の新しいバージョンで海軍情報局に勤務し、ニューロフォンシステムを使用して人間がイルカと会話できるようにしました。

海軍はこれを機雷の位置特定訓練、爆発物の設置と回収に使用していました。

ニューロフォンは、現在の構成では、頭蓋骨への音声送信の 1 つの要素であり、元の特許にはその答えが隠されており、実際、当初特許が却下された理由であったが、後に NSA がその開示を禁止したことが明らかになった。12 年後、彼は同じ装置の特許を許可されたが、1 つの重要な違いがあった。その違いは、V2k の 2 番目の部分、頭蓋骨への音声送信であるマイクロ波オーディオ効果であり、これは、マイクロ波の集中ビームとして耳道、蝸牛に送られる RF 信号を使用して実行される。1969 年に実行され、MI6 のバリー トロワー博士 (エージェントではなく科学者) によって私に説明された。

発明家パトリック・フラナガン博士の言葉です。

1958 年、パトリック フラナガン博士は米国テキサス州ベレアでニューロフォンを発明しました。当時彼は 14 歳でした。この電子機器は、通常の聴覚を介さずに皮膚を通して音を伝えます。シェル石油の特許弁護士だった家族の友人が、パトリックの特許申請を手伝いました。特許審査官は、これは単に骨伝導による音の伝達であると考え、12 年間特許の発行を拒否しました。



1970 年に行われた珍しい会合で、特許庁はニューロフォンを自ら調査し、パトリックと彼の弁護士に会うことに同意した。彼らは二人とも驚くべき事態に遭遇した。

試験官は、聴覚障害のある従業員を会議に出席させて、この装置をテストした。この男性は、片方の耳が完全に神経性難聴で、もう片方の耳もほとんど完全に難聴だった。パトリックは、彼にニューロフォンの使い方を教え、有名なマリア・カラスのオペラのレコードを聴かせた。彼女の歪んでいない美しい声を聞くことができたので、彼の頬には喜びの涙が流れ落ちた。

ニューロフォンを通して音楽や人間の会話を聞くと、私たちは 2 つの異なるチャンネルを通して音を聞いています。1 つのチャンネルは蝸牛を通して耳で通常聞こえ、もう 1 つのチャンネルは皮膚や骨を通して球形嚢に送られます。ニューロフォンを聞きながら耳をふさぐと、2 つの聴覚モードの違いを簡単に見分けることができます。ニューロフォンは骨伝導を通して蝸牛に伝わる通常の聴覚をバイパスし、ニューロフォンの 40 KHz 超音波搬送波は蝸牛をバイパスして球形嚢の聴覚チャンネルを活性化します。

ニューロフォンの仕組み:

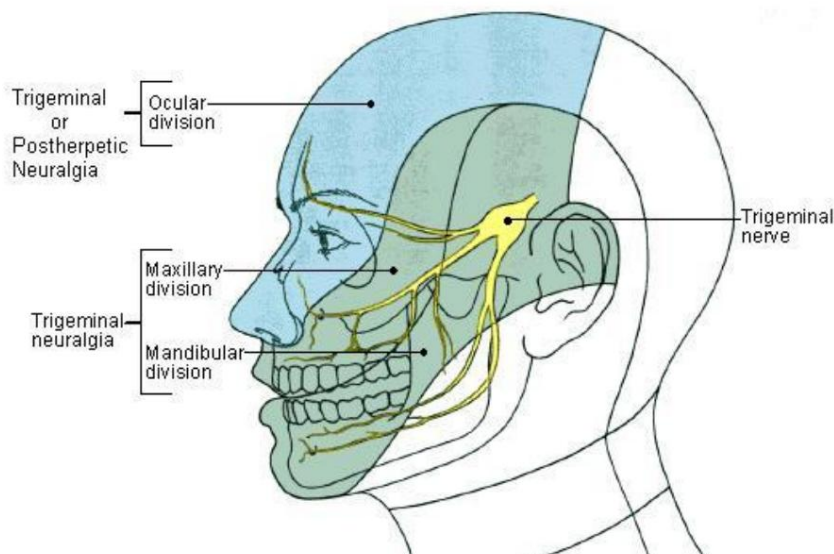
ニューロフォンは電子テレパシー機器です。

ニューロフォンを聴くための音源は、CD プレーヤー、MP3、ラジオ、ステレオ HI Fi システムなどです。また、ミキシング デスクとエフェクトを備えたマイクを使用して、ベルを鳴らすこともできます。ニューロフォンは、ヘッドフォンまたはスピーカー出力ジャックから駆動する必要があります。

ニューロフォンを使用する場合、通常、機械に内蔵されたスピーカーから聞こえる音楽の音量を、快適に聴けるレベルに調整します。

次に、ミニプラグをプレーヤーのイヤホンジャックに差し込み、標準フォンプラグをニューロフォンの入力ジャックに差し込みます。電極フォンプラグをニューロフォンの出力ジャックに差し込みます。ニューロフォンのボリュームコントロールをゆっくりと時計回りに回します。コントロールのスイッチでユニットがオンになります。このとき、小さな LED パネルランプが点灯するはずですが、ニューロフォンの電極を通してプレーヤーから音楽が聞こえ始めるまで、コントロールをゆっくりと上げます。

フラナガン博士は研究の結果、理想的な瞑想環境を設計しました。この環境は、電磁汚染から保護された特別な部屋 (ファラデー ケージ) です。この部屋には、ERG (地球共鳴発生器)、イオン発生器 (注意: 一部のイオン発生器も汚染物質を発生します)、8Hz の脈動高電圧場 (ERG に同期)、ニューロフォンが設置されています。



いくつかのテストにより、ニューロフォンは第 8 脳神経、聴覚神経を迂回して音を直接脳に伝えることが証明されています。これは、ニューロフォンが第 7 感覚または代替感覚を通じて知覚を刺激することを意味します。

皮膚が超音波インパルスを入内耳の器官に伝えることが分かっています。

球形嚢（内耳で頭の動きを制御する神経の束）のように、皮膚は超音波（40kHz）に共鳴して振動します。

ニューロフォンは搬送波を変調し、搬送波からの音を複数のチャンネルを通して脳に送ります。聴覚は骨伝導によって蝸牛に伝わります。骨伝導が機能するには、球形嚢を活性化するための 40 kHz の超音波搬送波が必要です。ニューロフォン トランスデューサーが接続されると、超音波搬送波は蝸牛を迂回し、球形嚢の聴覚チャンネルを活性化します。

まず第 8 脳神経につながる蝸牛または内耳が機能する必要があります。

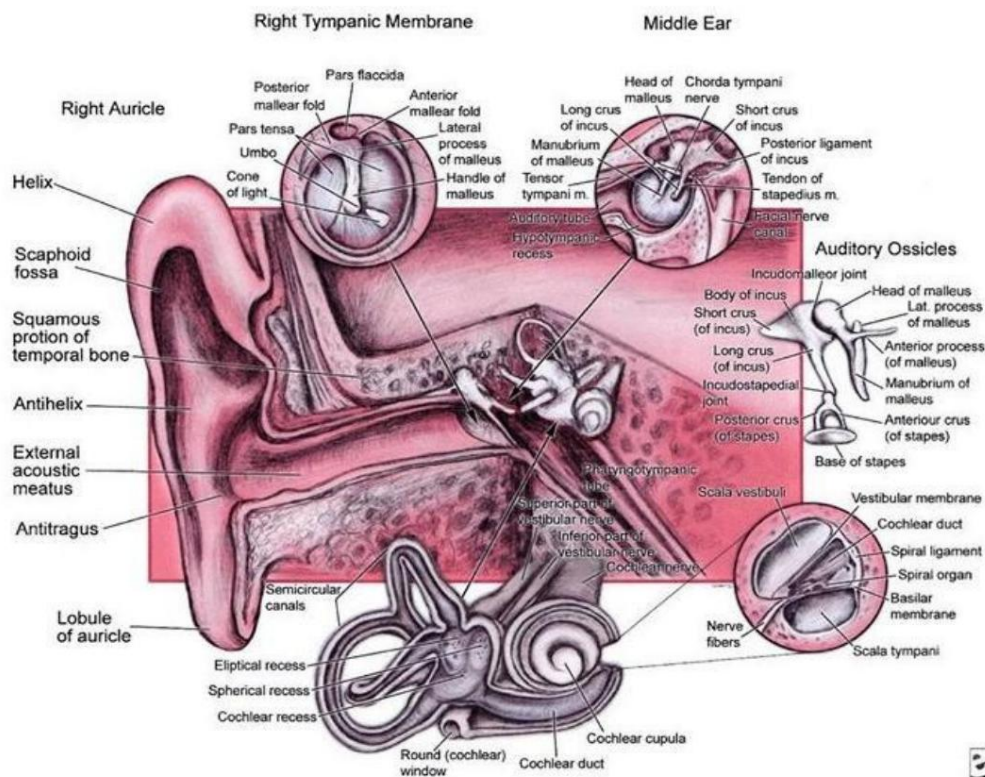
神経性難聴の人は、内耳の神経が機能していないため、骨伝導で音を聞くことができません。骨伝導の過程では、音は骨の骨格構造を通じて内耳に伝わり、そこで通常は鼓膜によって振動する小さな骨が骨格の振動によって活性化されます。この振動は内耳によってエンコードされ、第 8 脳神経によって脳に伝達されます。

ニューロフォンの電極が目を閉じた状態、または顔に取り付けられると、脳内から音が聞こえてくるかのように音がはっきりと聞こえます。電極が顔に取り付けられると、音は三叉神経を通じて知覚されます。

したがって、ニューロフォンは三叉神経や顔面神経を通じて機能することがわかっています。顔面神経が麻酔注射によって麻痺すると、顔を通して音を聞くことができなくなります。このような場合、顔の皮膚が麻痺する細い線があります。電極が麻痺した皮膚に置かれると音を聞くことはできませんが、感覚が残っている皮膚に電極をほんの少し動かすと、音の知覚が回復し、人は音を聞くことができます。

したがって、ターゲットとするエリアがカバーするエリアの 1 つである場合、三角形のビーム システムを使用してそのエリアをカバーすると、音量が下がり、その後ビームが追跡されると音量がフェードインします。

これは、ニューロフォンによる音の知覚手段が骨伝導ではなく皮膚によるものであることを証明しています。第 8 脳神経に損傷のある人がこの装置で音を聞くことができるという事実から、ニューロフォンが別の生物学的経路を利用していることは確かです。



皮膚は私たちの最大かつ最も複雑な器官です。最初の防御線であるだけでなく、感染に対する防御として、皮膚は巨大な液晶脳です。皮膚は圧電性です。振動したり擦れたりすると、スカラー波として電気信号を生成します。すべての知覚器官は皮膚から進化しました。私たちが胎児のとき、感覚器官は皮膚のひだから進化しました。多くの原始的な生物や動物は皮膚で見たり聞いたりすることができます。

現在、皮膚が超音波インパルスを入内耳の球形嚢と呼ばれる器官に伝達することがわかっています。皮膚は超音波 (40 KHz) ニューロフォン変調搬送波と共鳴して振動し、搬送波からの音を複数のチャンネルを通じて脳に伝達します。

ニューロフォンが最初に開発されたとき、神経生理学者は、脳は配線されており、さまざまな脳神経がすべての感覚系に配線されていると考えていました。第 8 脳神経は、内耳から脳まで伸びる神経束です。理論的には、感覚器官が配線されている場合のみ、耳で聞くことができます。

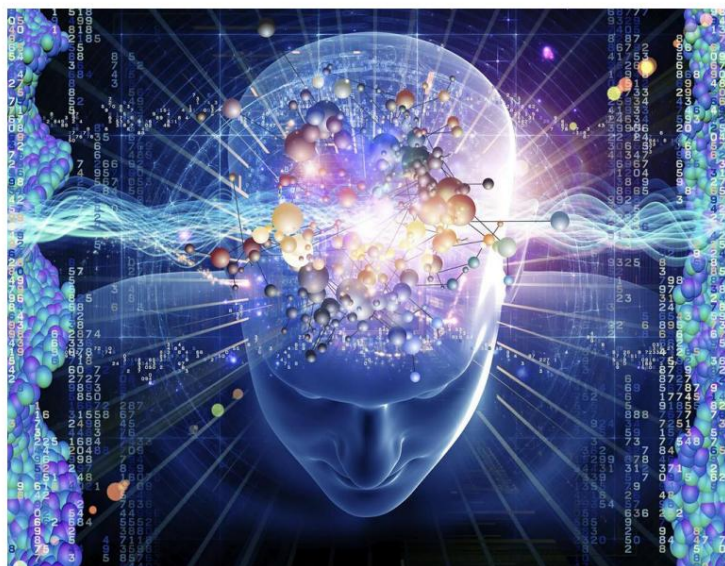
ホログラフィック脳理論は、脳がホログラフィック符号化システムを使用して、脳全体が多面的な感覚符号化コンピュータとして機能できるとしています。これは、聴覚などの感覚印象が符号化され、脳のどの部分でも特殊なタイプの信号符号化に従って入力信号を認識できることを意味します。理論的には、私たちは目と耳だけでなく、複数のチャンネルを通じて見たり聞いたりできるはずですが。

ニューロフォンの鍵となるのは、身体の中の神経でも音として認識される同じ時間比コードを運ぶデジタルコード化された信号で皮膚の神経を刺激することです。

市販のデジタル音声認識回路はすべて、いわゆる優位周波数パワー分析に基づいています。音声はこのような回路で認識できますが、実際には音声のエンコードは時間比に基づいています。周波数パワー分析回路の位相が正しく調整されていないと、機能しません。情報 (サウンドを含む) は位相情報によって伝達されます。

声の周波数成分は声の質を決めるが、周波数は

情報を含む。コンピュータの音声認識と音声生成の試みはすべて部分的にしか成功していない。デジタル時間比符号化が使用されない限り、コンピュータは実際に人間と話すことはできない。だから、ニューロフォンを使ってコンピュータと話すことができる。これは間違いなく今後数年のうちに実現するだろう。



フラナガンがマン・ドルフィン通信機の音声を認識するために開発したコンピューターは、時間比分析のみを使用していました。

時間比エンコーディングを認識して使用することで、非常に狭い帯域幅でクリアな音声データを送信できるようになりました。

あるデバイスでは、帯域幅がわずか 300 ヘルツでありながら、非常にクリアな送信を維持できる無線送信機を開発しました。信号対雑音比は帯域幅を考慮する必要があるため、ミリワットの電力を使用しながら、数千マイル離れた場所でもクリアな音声を送信できるようになりました。

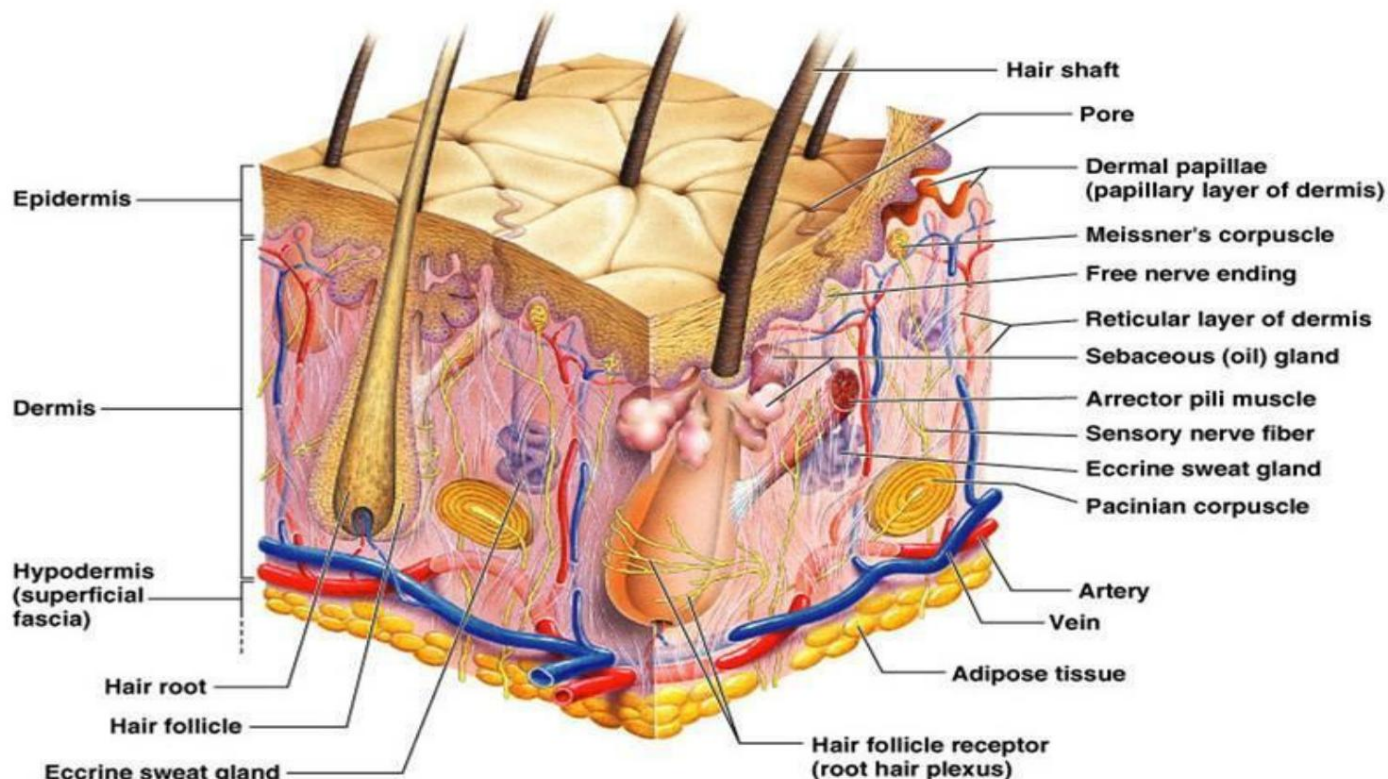
改良された信号処理アルゴリズムは、現在開発中のニューロフォンの新シリーズの基礎となっています。これらの新しいニューロフォンは、最先端のデジタル処理を使用して、音声情報はるかに明瞭に表現します。

私たちの肌:

皮膚は、胎児の頃からあらゆる特殊感覚の源です。皮膚には、人体のどの部分よりも多くの熱、触覚、痛みのセンサーが備わっています。人間の耳は、母親の子宮内の胎児の皮膚のひだから胎児の頃から進化しました。

基本的に、皮膚は進化上最も古い神経系センサーです。皮膚は耳の前身であるため、聴覚も備えているはずですが。言い換えれば、第8脳神経以外の手段で聴覚を脳に伝達できるはずですが。

スキンは圧電式と光電式の両方を備えています。



皮膚は電界または光子場によって刺激されると振動します。皮膚を振動させたり擦ったりすると、皮膚内にスカラー波として電気信号が生成されます。

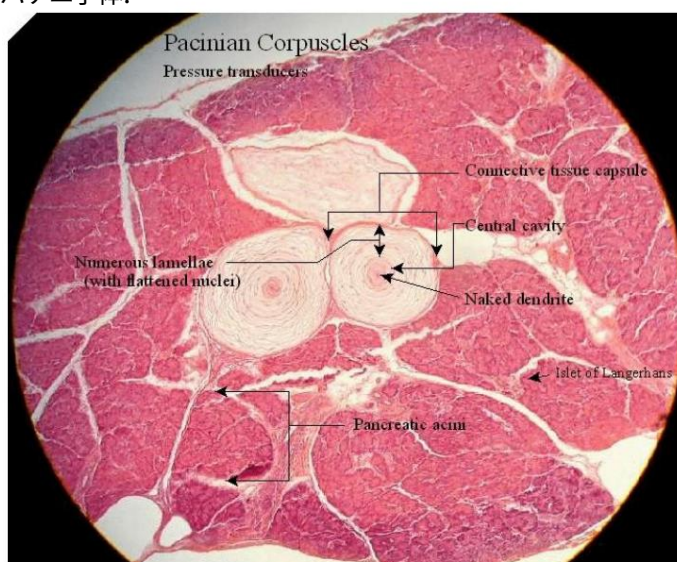
ニューロフォンは実際にはスカラー波デバイスです。なぜなら、電極からの位相のずれた信号が皮膚の誘電場の非線形の複雑さの中で混合されるからです。

研究によると、皮膚自体には知覚のあらゆる機能を果たす潜在能力があるようです。皮膚が機械的に刺激されると、皮膚は独自の電界と光子場を生成し、これが定常スカラー波の形で現れます。この効果により、ロシアでは目の見えない人が指先で見る訓練を受け、チェコスロバキアでは耳の聞こえない人が指先で聞く訓練を受けています。これは、指に体のどの部分よりも多くのパチニ小体 (PC) があるためです。

ニューロフォンは圧電電極/トランスデューサーを使用します。そのうち 2 つは 180 度位相シフト電極で、音は 180 度位相シフトされた情報によって伝達されます。トランスデューサーは、皮膚自体に一致する最大のインピーダンスを提供するために、アクリルプラスチック タイルに埋め込まれたチタン酸ジルコニウムで製造されています。

ニューロフォンの鍵となるのは、身体の中の神経でも音として認識される同じ時間比コードを運ぶデジタルコード化された信号で皮膚の神経を刺激することです。

パチニ小体:

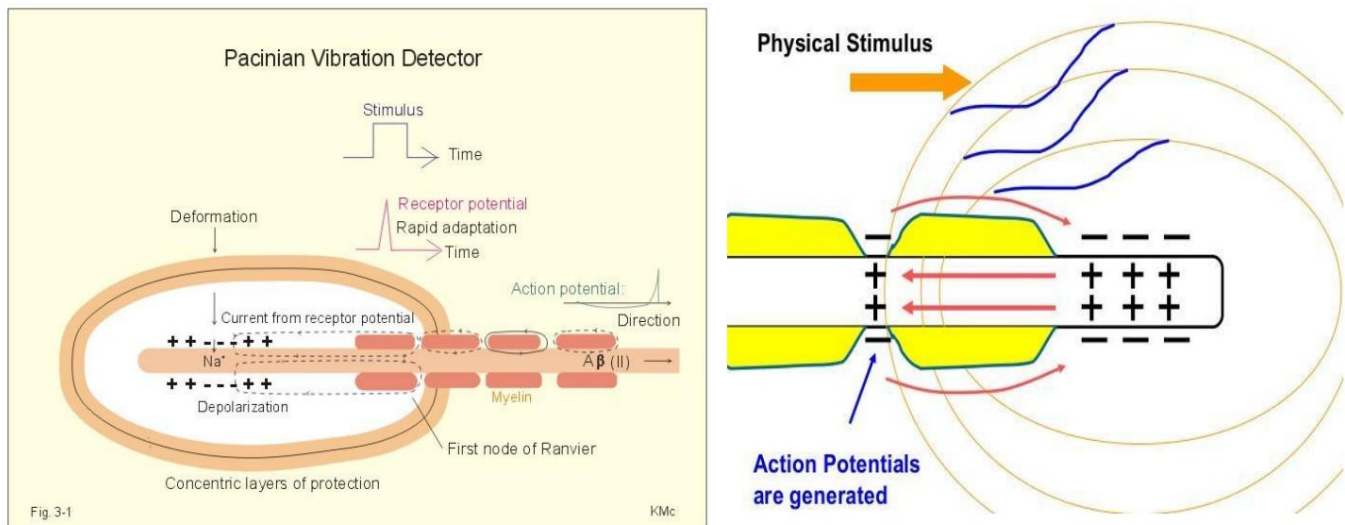


皮膚には多くのエネルギー感知機構があり、その 1 つがパチニ小体 (PC) として知られています。PC は、機械的な振動や圧力を神経インパルスに変換する特殊な神経終末です。

1980 年までは、トランスデューサーについてはほとんど知られておらず、この装置は低周波の刺激でしか機能しないと考えられていました。

イタリア、ミラノの Fernando Grandori 氏と Antonio Pedotti 氏による最近の研究により、このメカニズムにまったく新しい光が当てられました。(Vol IEEE トランザクションの上 生体工学、BME-27、#10、1980

年 10 月) 現在、PC は非常に高い周波数に反応し、矩形波の刺激に最もよく反応するようです。



PC は、ラメラと呼ばれる密集した膜で構成された円筒状のコア構造に囲まれた敏感な神経終末で構成されています。コアは 2 番目のラメラ セットに囲まれており、各ラメラ間の距離は、最も内側のラメラから小体の周辺に向かって増加します。すべてのラメラ間の空間は、水に似た機械的特性を持つと考えられる液体で満たされています。適切な圧力を加えることで最も外側のラメラが変位すると、この刺激がコアに伝達され、次に最も内側のラメラが圧縮されます。このシステムは、差別化機械増幅器として機能します。

ここで重要なのは、PC が矩形波に最もよく反応するということです。テストにより、変化率の方が、微粒子に適用される圧力の振幅よりも重要であることが明らかになりました。これは、この高度に洗練された受容体が、まず時間の重要性を検出し、次に圧力の重要性を検出するように設計されていることを示しています。

ニューロフォンの電極ディスクをこめかみに当て、50 ボルトの正弦波オーディオ信号を入力すると、信号は弱く知覚されます。同じ信号を矩形波として入力すると、正弦波の 10 倍の音量で知覚されます。これは、ニューロフォンの知覚メカニズムは時間変化率でコード化されているというフラナガン博士の理論を実証するものです。

PC は皮膚表面全体に存在し、特に指先と性器に集中しています。

ニューロフォンは神経系とどのように関係しているのでしょうか。

ここで、神経系に適用された 30 KHz キャリア正弦波を分析し、神経系が何を見ているかを見てみましょう。正弦波は曲線に沿ったポイントでクリップされ、クリップされた波の上部の幅は 15 マイクロ秒です。この時点で神経系の CRT (臨界反応時間) が約 15 マイクロ秒であれば、完全な負荷が発生します。

さて、この時点で神経系の CRT が 20 マイクロ秒に変化した場合、同じ応答を得るには搬送波を 25 KHz にシフトする必要があります。この CRT の増加は、人がコリネリア状態になったことを示します。ニューロンの新しい CRT により、ニューロンは 30 KHz では不適切にロードされますが、25 KHz では適切にロードされます。

元のデバイスには、3000 ボルト信号の搬送 RF 波があり、非常に低い電力密度の電界を生成しました。搬送周波数は 50 KHz 付近であったため、電極の静電容量は非常に低かったです。上記の低電力密度の電気条件は、元のデバイスが安全に使用できることを示しています。ただし、電極表面に傷が付くと、ユーザーは軽度ではありますが不快な軽い電気ショックを受けることになります。

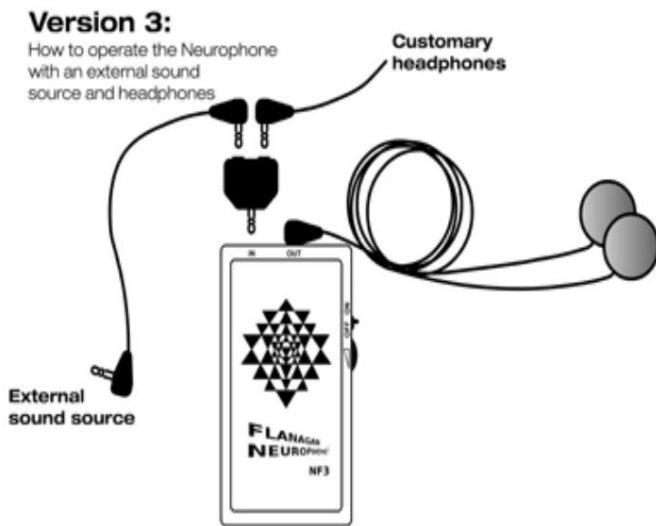
現在までに最も優れたニューロフォンであるニューロフォン Mk XI の開発は、

また、無線周波数搬送波を使用する必要もありません。新しいバージョンでは、電界（約 20 ボルト RMS）が皮膚セラミック電極の組み合わせと相互作用して、皮膚に分子振動を発生させます。平均 20 ボルト RMS 信号は、動作するために無線搬送波を必要としません。前述のように、元のニューロフォンの設計は、変調信号が時間領域信号特性を高めるように処理されなかったため、実際には力づくで動作しなければなりません。前述のように、元のニューロフォンは、50000 Hz の搬送周波数で 3000 のオーダーの典型的な電圧を生成しました。皮膚は圧電性であり、12000 Hz の範囲の誘電率を持つため、ニューロフォンの電極は、皮膚自体に最大のインピーダンス整合を提供するように設計されたセラミック材料で作られています。

ニューロフォンの時間処理された信号は、頭部の皮膚に接触するように配置された一対の高誘電率セラミック電極に送られます。

電界（約 20 ボルト RMS）が皮膚のセラミック電極の組み合わせと相互作用し、皮膚に分子振動を生み出します。

彼は、情報の真の搬送波は、変圧器と電極および人体によって形成された並列同調回路の複合回路の衝撃励起によって生成される振動による無線信号であると推論しました。彼は独自に設計した高周波発振器を使用してユニットの実験を開始し、回路内で毎秒約 40,000 サイクルの共振を発見しました。



彼はすぐに、共鳴周波数が感情や身体全体の変化によって突然変化するのを発見した。電極の静電容量、つまり皮膚の誘電率は、わずかな外部刺激によって突然変化する。皮膚の誘電率は、ほんの一瞬で数桁も変化するのだ！パラメータの予備測定の後、私はオリジナルのニューロフォンを設計した。これは、この装置の特許（#3,393,279）に示されている。この装置は、本質的には、低電力の高電圧周波数変調無線送信機であった。その周波数は、共鳴の変化を補正するために調整可能であった。オリジナルの装置は手動で調整可能であった。後の装置は、最大共鳴になるように自動的に調整された。

共鳴無線搬送波の追加が違いを生み出しました。デバイスから発せられる音は素晴らしく、まるで別世界からの音のようでした。耳の通常の周波数応答が通常の限界を超えて拡張され、歪みはありませんでした。

変調は、このような電磁波の振幅変調または周波数変調のいずれかによって適切に実行できます。これらの波は、好ましくは、約 20 キロサイクル/秒から約 200 キロサイクル/秒の範囲の周波数を持ちます。変調された電磁波のソースの出力は、フィールド ジェネレータが人の頭部に配置される一対の絶縁電極で構成される場合、少なくとも約 1 ワットであるのが望ましいです。

ホログラフィックサウンド:

ドルフィン プロジェクトで、フラナガンは多くの潜在的な新技術の基礎を開発しました。私たちは、人間の脳が音声知能パターンを解読するために使用するエンコード メカニズムを突き止めることができ、また、脳が 3 次元空間で音源を見つけるために使用するメカニズムを解読することができました。

これらの発見により、3D ホログラフィック サウンド システムが開発され、リスナーが知覚する空間のあらゆる場所に音を配置できるようになりました。言い換えると、音がまるで何も無いところから聞こえてくるように聞こえるのです。人間の耳は約 16,000 Hz (1 秒あたりの振動、パルス、サイクル) に制限されていますが、イルカは 250,000 Hz までの音を生成し、聞き取ることができます。私たちの特別なニューロフォンにより、イルカの音の全範囲を聞くことができるようになりました。

彼のデジタルニューロフォンの特許申請が特許庁に送られると、NSA はそれを秘密保持命令の対象にした。彼はその後 5 年間、この装置の開発に取り組んだり、誰にもこの装置について話すことができなかつた。これはひどく気が滅入る出来事だった。最初の特許を取得するのに 12 年かかり、そして今、彼のすべての研究が国家安全保障命令で封印された。

ORDINARY RADIO AND TV SIGNALS USE A SMOOTH WAVE FORM CALLED A 'SINE' WAVE, SHOWN BELOW. THIS SMOOTH SINE WAVE SIGNAL CANNOT NORMALLY PENETRATE THE 'VOLTAGE GRADIENT' ACROSS NERVE CELL WALLS

RADAR SIGNALS CONSIST OF VERY SHORT AND POWERFUL PULSES OF SINE WAVE SIGNAL,

... AND THESE SHORT PULSES CAN PENETRATE THE STEEP VOLTAGE GRADIENT ACROSS NERVE CELL WALLS. THIS WAS MADE PUBLIC BY G.E. SCIENTIST ALLAN H. FREY AT CORNELL UNIVERSITY IN 1962.

NA SA, DOD, AND EPA HAVE PUBLISHED REPORTS WHICH DECLARE THAT WORD COMMUNICATION BY THIS METHOD IS AN ESTABLISHED TECHNOLOGY.

DIFFERENCES IN OSMOSIS OF IONS (DISSOLVED SALT COMPONENTS) CAUSE A SMALL VOLTAGE DIFFERENCE ACROSS CELL WALLS

WHEN A SMALL VOLTAGE APPEARS ACROSS A VERY TINY DISTANCE, THE CHANGE IN VOLTAGE IS CALLED VERY 'STEEP' AND THIS STEEP 'GRADIENT' IS WHAT KEEPS NORMAL RADIO SIGNALS FROM THROWING US INTO CONVULSIONS.

*THE FIRST UN-CLASSIFIED SUCCESSFUL TRANSMISSION OF THE HUMAN VOICE DIRECTLY INTO THE SKULL OF A LIVING PERSON WAS PERFORMED BY DR. JOSEPH C. SHARP OF THE WALTER REED ARMY INSTITUTE OF RESEARCH IN 1974.

BY CONVERTING A HYPNOTIST'S VOICE INTO THE ULTRASOUND RANGE USING A MODIFIED TELEPHONE VOICE CHANGER, IT IS POSSIBLE TO HYPNOTIZE A TARGET WITHOUT THE TARGET BEING AWARE, FROM HIDING, LEAVING ZERO TRACE EVIDENCE.

SECTION OF CELL WALL

DIFFERENT IONS PASS THRU CELL WALL AT DIFFERENT RATES

NERVE CELL

RADIO SIGNALS VS. NERVE CELLS

<http://www.raven1.net/v2skull.gif> ...etc... <http://www.bestnet.org/~raven1/v2skull.gif> Jan 19/00

この画像の情報は、V2k の日付 (Flanagan による 1958 年) を除いて正確です。

デジタル ニューロフォンは、音波を人間の脳が理解できる時間比コードに一致するデジタル信号に変換します。これらの時間信号は、音声認識だけでなく、3D 空間での音の位置の認識にも使用されます。デジタル ニューロフォンは、彼が最終的に製造し、マーク XI およびシンクマン モデル 50 バージョンとして販売したバージョンです。これらのニューロフォンは、その同調効率により、特に高速学習マシンとして有用でした。

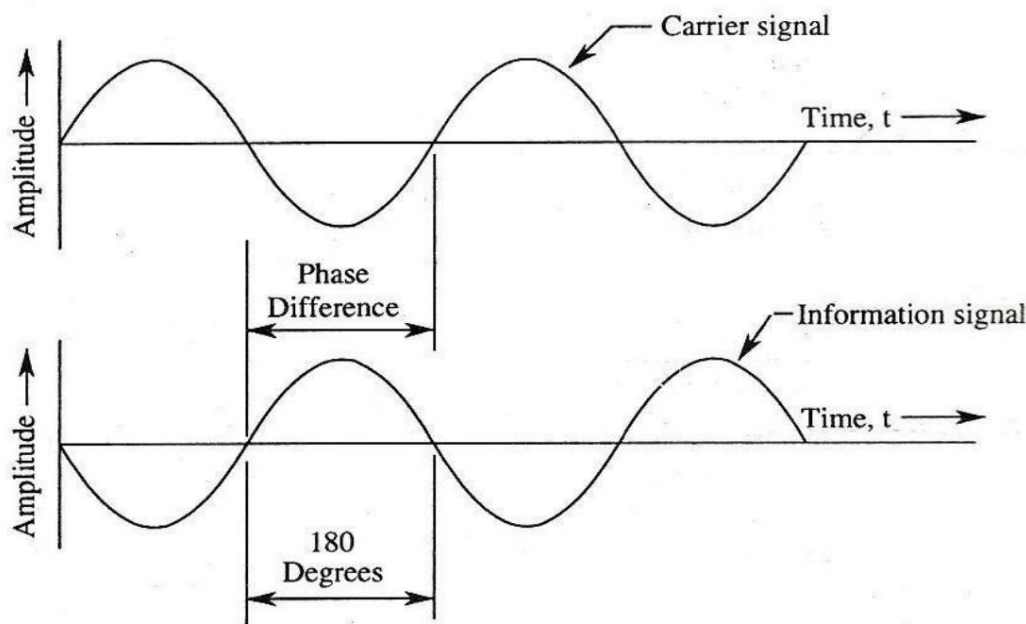
最初のニューロフォン装置は、2つのブリロパッドを絶縁銅線に取り付けて作られました。パッドからの配線は、逆のオーディオ出力トランスに接続され、

Hi-Fi アンプに接続します。オーディオ トランスの出力電圧は、ピーク ツー ピークで約 1,500 ボルトです。音を聞いていると、アンプがオーバードライブされ、矩形波が生成された場合に、信号が最も大きくクリアに聞こえます。同時に、トランスは 40 ~ 50 kHz の周波数で減衰波形で鳴り響き、振動します。

次のニューロフォンは、振幅変調された可変周波数真空管発振器で構成されていました。この出力信号は、20-100kHz の範囲で周波数応答が平坦な高周波トランスに送られました。電極は頭に置かれ、発振器はタンク回路の一部として人体を使用して最大の共鳴が得られるように調整されました。

後のモデルには、共振周波数を自動的に調整するフィードバック機構が搭載されました。

人間の皮膚の誘電率は大きく変化することがわかった。エネルギーを最大限に伝達するためには、ユニットを共振状態に戻して、リスナーの身体の動的誘電応答に合わせる必要があった。2,000ボルトのピークツーピーク振幅変調搬送波は、異なる厚さのmy-arフィルムで絶縁された直径2インチの電極ディスクによって身体に接続された。ニューロフォンは実際にはスカラー波装置であり、電極からの位相外れの信号が非線形に混合される。



Carrier and information signals 180 degrees different in phase

皮膚誘電体の複雑さ。

この画像を 2 つの電極またはトランスデューサー、あるいは 2 つのマイクロ波集中ビームとして想像してください。

各コンデンサ電極からの信号は 180 度位相がずれています。各信号は、位相キャンセルが発生する人体の複合誘電体に伝送されます。最終的な結果はスカラー ベクトルです。この事実は、彼がこの装置を発明した当時は知られていませんでした。この知識は、人間の神経系がスカラー信号に特に敏感であることがわかったときに後から得られました。高周波振幅変調ニューロフォンは、優れた音の明瞭性を備えています。

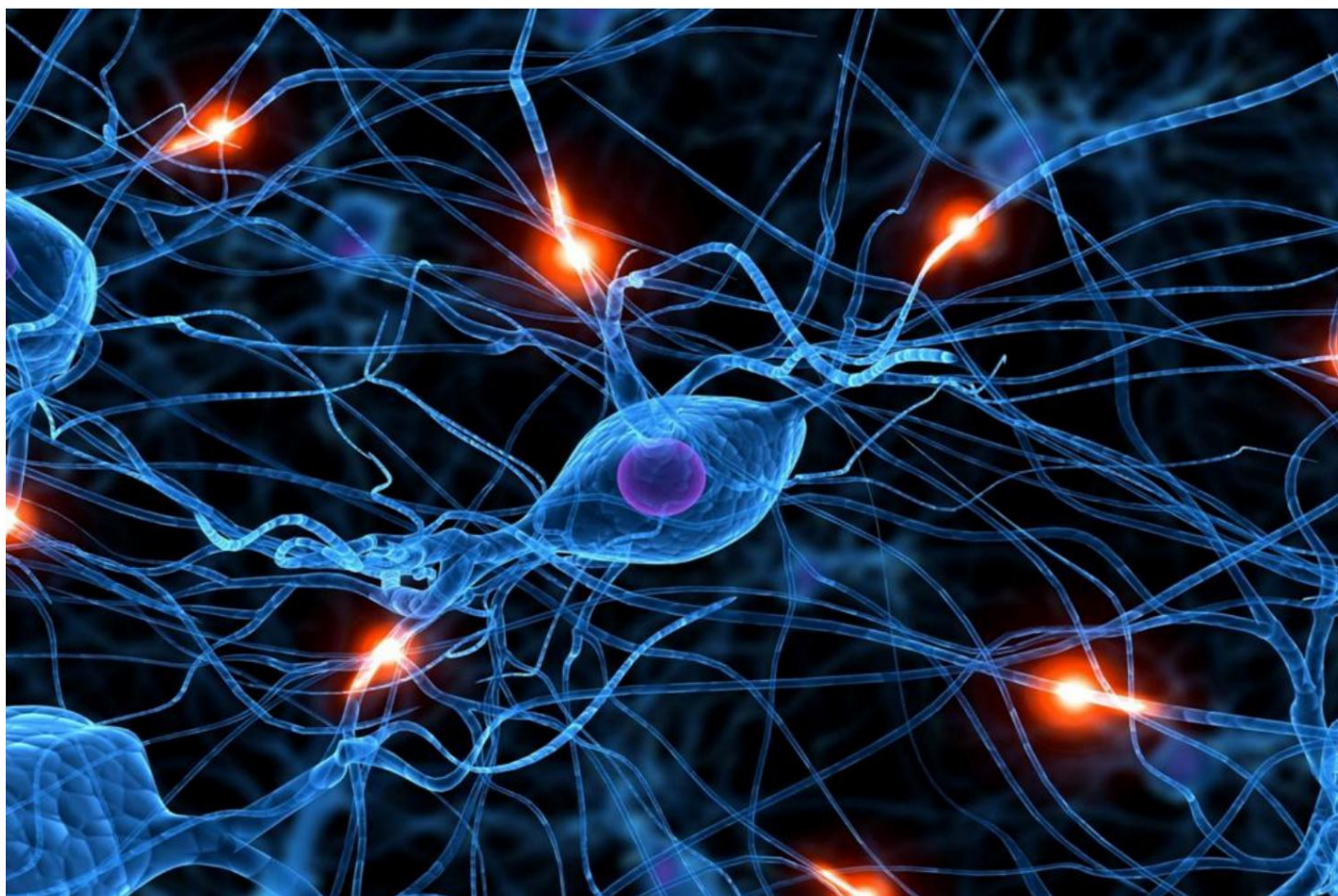
知覚された信号は頭の中から発せられているように非常にはっきりと認識されました。私たちは、神経性難聴の人でもこの装置で聞こえることをかなり早い段階で確認しました。

しかし、何らかの理由で、神経性難聴の人全員が最初から聞こえるわけではありません。脳が新しい入力データに適応するのに時間がかかり、このプロセス中に、心は実際に受信システムを構築、またはむしろ、しばらくすると筋肉が鍛えられて大きくなるのと同じように、受信システムを拡張します。

電子テレパシー:

ニューロフォンは電子テレパシー装置です。いくつかのテストにより、ニューロフォンは第 8 脳神経、聴覚神経を迂回して音を直接脳に伝えることが証明されています。これは、ニューロフォンが第 7 または代替感覚を通じて知覚を刺激することを意味します。すべての補聴器は中耳の小さな骨を刺激します。鼓膜が損傷すると、耳の後ろの頭蓋底に置かれた振動器によって内耳の骨が刺激されることがあります。

骨伝導は歯を通して機能します。骨伝導が機能するためには、前述のように、第 8 脳神経につながる蝸牛または内耳がまず機能する必要があります。神経性難聴の人は、内耳の神経が機能していないため、骨伝導で音を聞くことができません。



これは、ニューロフォンによる音の知覚手段が骨伝導ではなく皮膚によるものであることを証明している。タフツ大学では、米国海軍イリカ通信プロジェクトにおけるフラナガンのパートナーの一人であるドワイト・ウェイン・バトー博士によって設計された以前のテストが実施されていた。このテストはビート周波数テストとして知られていた。わずかに異なる 2 つの周波数の音波が、波が互いに干渉し合ってビート音を生み出すことはよく知られている。



たとえば、300 Hz の音と 330 Hz の音を同時に片方の耳に流すと、30 Hz ではないビートが知覚されます。これは、内耳の骨構造における音の機械的な加算です。脳のある脳梁で音が一緒に鼓動する別のビートがあります。

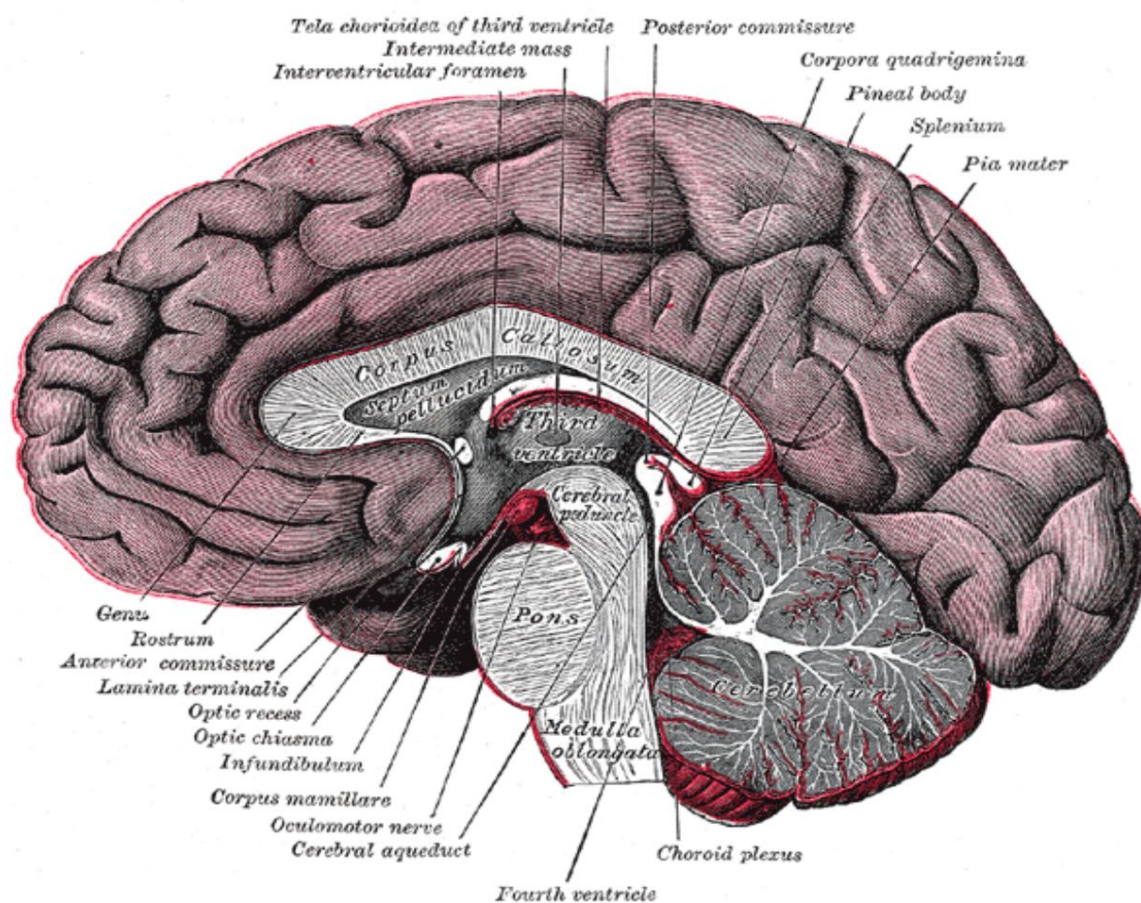
このバイノーラルビートは、モンロー研究所などで、改変された脳波をシミュレートするために使用されています。

脳を高アルファ波またはシータ波の状態に同調（脳波が信号にロックオンして追従するようにする）することによって、脳の状態を調整します。

人間の脳梁の音箱。

これらの脳の状態は、創造性、明晰夢、および覚醒時には到達が難しいその他の意識状態と関連しています。ターゲットにされているのは、音楽家、芸術家、科学者など、クリエイティブな人々です。

ニューロフォンは強力な脳同調装置です。アルファ信号またはシータ信号をニューロフォンから直接流せば、脳を望みの状態に動かすことができます。パトーの理論は、音が頭の片側からのみ聞こえるようにニューロフォンの電極を配置し、ニューロフォンから 300 ヘルツの信号を流し、通常のヘッドホンから 330 ヘルツの信号も流せば、内耳の骨で信号が加算されればビート音が得られるというものでした。テストを実施したところ、ビートのない 2 つの明確な音を知覚することができました。このテストにより、ニューロフォニック聴覚は骨伝導によるものではないことが再び証明されました。ステレオ ニューロフォンを使用した場合、両耳のビートに似たビート音を得ることができましたが、ビートは神経系内で発生しており、骨伝導によるものではありません。



ニューロフォンは、脳の変化した状態への入り口です。その最も強力な用途は、脳中枢との直接通信であり、それによって、脳との通信能力を制限する可能性のあるフィルターや内部メカニズムを回避します。脳への直接音声通信の秘密を解明できれば、視覚通信の秘密も解明できます。皮膚には、振動、光、温度、圧力、摩擦を感知できる受容体があります。私たちがすべきことは、適切な信号で皮膚を刺激することだけです。フラナガンはニューロフォンの研究を続けています。彼は最近、ニューロフォン伝送の他のモードを開発しました。私たちはまた、ニューロフォンを逆転させ、生体システムによって生成されるスカラー波を検出できることを発見しました。

この検出技術は、実際には本山博博士が使用したプロセスと非常によく似ています。

日本。本山博士は、ニューロフォンで使用するものと非常によく似たコンデンサ電極を使用して、チャクラと呼ばれる体のさまざまなパワーセンターからのエネルギーを検出しました。

ニューロフォンの詳細情報:

ニューロフォンは、現在の理論や知識に反して、聴覚系をまったく通さずに脳と精神系に直接「脳を刺激」し、音と情報を再生する装置である。ニューロフォンの仕組みを簡略化した図を図1に示す。

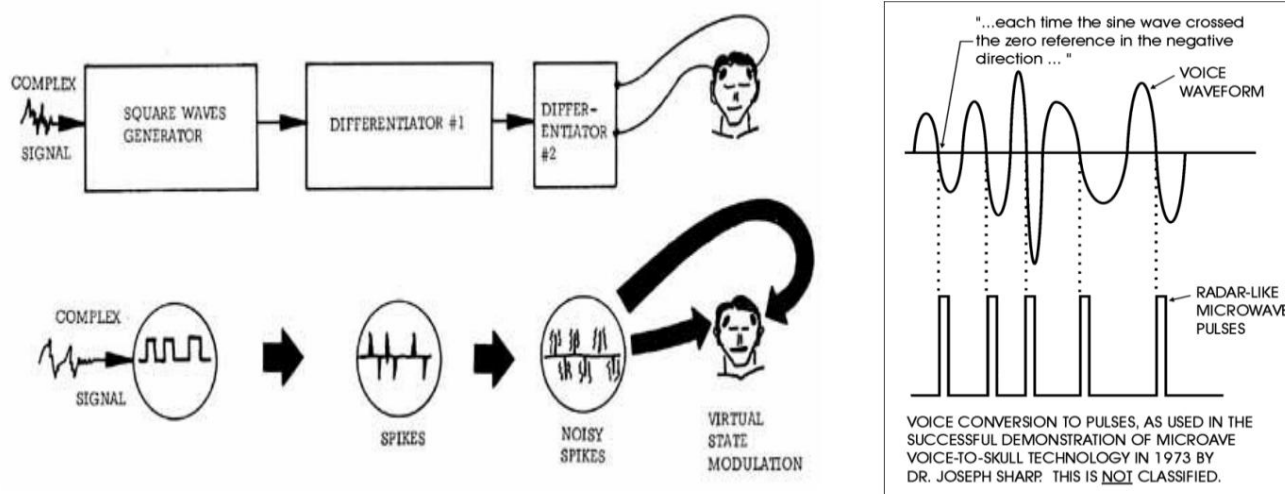


図1. 改良されたフラナガンニューロフォンの簡略図

この装置は、音楽のような複雑な音声信号を受け取り、図 1 に示すように電氣的に処理します。まず、信号は、すべてを一連の矩形波にクリップするセクションに渡されます。これは、リシツイン氏が人間の脳の情報キャリアであると確認しているクリップされた波形と非常によく似ています。音声通信の再生は、受信側のデコーダーが送信側のエンコーダーと一致している場合のみ実現できます。エンコーダーとデコーダーは、安全な送信を維持するために簡単に交換できます。

「Excalibur Briefing」の定義より:

ニューロフォンは、人間の脳と神経系に信号を直接電磁的に入力する機器です。パット・フラナガン博士によって発明されました。彼の最新版は、入力信号を

方形波を二度微分し、その結果生じるノイズのスパイクを人間の感覚器官に送り込む。元の信号は脳に刻み込まれ、心に直接伝わる。ベアデンによれば、ソ連のリシツインの研究に基づいて構築された 11 以上の独立した周波数を使用する適応は、人間の心のつながりを実現するために使用できる可能性があるという。

リシツインの論文は、脳波の 11 の独立したチャンネル (つまり、脳波を作る樹状突起の発火波への心と生命と意識のつながり) について言及していると言われており、これらは特にクリップされた信号 (正弦波ではない) について言及されています。微分化のプロセスを理解していない人のために説明すると、これは出力が入力の信号強度の変化に比例することを意味します。(下の図は、信号がどのように変更され、電極に送られるかを示しています)

複雑な矩形波の差別化要因 #1 違い #2 脳

信号発生器電極 / \ _ _ / \ _ | | | | _ | _ | _ _ " _ _ ' _ ==> ||| 矩形波 スパイク ノイズの多いスパイク。

次に、矩形波を微分すると、一連の鋭いスパイクが生成されます (これらのスパイクは、クリップされた信号のパルス時間の内容を保持していることに注意してください)。これらのスパイクは再び微分され、これらは理論的なものではなく、実際のゼロではない立ち上がり時間と減衰時間を持つ有限のスパイクであるため、

構造上、2番目の微分器セクションから一連のノイズスパイクが発生します。ここから、ノイズスパイクは特別な接触電極に導入され、そのうちの1つは通常、



額に、もう 1 つはほぼどこにでも配置できます。

矩形波クリッパー セクションは、複雑な信号、その倍音、およびその複雑な変調を矩形波に縮小し、波形ミックスの時間的内容は保持しますが、波形自体は保持しません。第 1 および第 2 の微分器は、高次の微分の時間的内容を強調またはフィルタリングします。つまり、これらは、信号のニュートリンおよびマインド フィールド部分または側面の時間キーを強調するバンド パス フィルター ユニットとして機能します。

これらの時間スパイクがパルス電圧として体全体に導入されると、脳と神経系の樹状突起の発火に直接変調され、心-脳-意識-生命ループ自体のニュートリンおよびマインドフィールド構成要素チャネルの直接的かつパルスの変調が提供されます。このように、ニューロフォンは、心-脳ループと外部環境の間にあるすべての通常の感覚システムをバイパスして、脳と神経系に直接情報を入力します。

実際、ミズーリ大学の 2 人の研究者によって同様の展開が報告されています。

神経生理学者のドナルド・ヨーク氏と言語病理学者のトーマス・ジェンセン博士は最近、約 40 人の被験者の特定の脳波パターンで 27 の単語と音節を識別して解読し、これらの脳波パターンを話し言葉と黙想中の言葉の両方と相関させたと報告しました。現在、ヨーク博士とジェンセン博士は、脳波語彙をコンピューターにプログラミングして、脳卒中患者の脳の EEG を監視および読み取り、発話能力を失った脳卒中患者のコミュニケーションを支援しています。

パット・フラナガンのニューロフォンは、複雑な情報を通常の隔離障壁を回避して脳と心に直接埋め込むことができることを証明しています。ヨーク博士とジェンセン博士は、脳波には確かに認識可能で解読可能な類似情報が含まれていることを実証しました。リシツイン博士は、関与する独立したチャネルの数を測定したことをすでに報告しており、正弦波の内容ではなく、クリップされた脳波の重要性を文書化しています。

ニューロウェーブ信号開発の歴史

1. Hi-Fi アンプにステップアップ オーディオ トランスが取り付けられました。オーディオ トランスの出力電圧は、ピーク ツー ピークで約 1,500 ボルトでした。音質は非常に悪く、非常に歪んでいて、非常に弱いと感じられました。信号は、アンプがオーバー ドライブされ、クリップされた矩形波が生成されているときに、最も大きく、最もクリアに感じられました。O'scope 信号には、40 ~ 50kHz の周波数で、リングング スパイクまたは減衰波の振動がありました。(Flanagan、Life Magazine、1962 年 9 月 14 日)

2. 次に、振幅変調信号が、20~100kHz の範囲で調整可能な周波数に対して周波数応答が平坦な高周波トランスに送られました。

出力は 2,000 ボルトのピークツーピーク振幅変調搬送波でした。

(フラナガン特許第3,393,279号 (1968年))

3. オーディオ信号は 50KHz の矩形波搬送波にパルス幅変調されます。

出力は 50 ボルトの矩形波に昇圧されます。この信号は piezo セラミック ディスク (チタン酸ジルコン酸鉛) によって本体に適用されます (Flanagan 特許番号 3,647,970 (1972))

4. オーディオ信号は、45KHz 方形波キャリアにパルス幅変調され、その後二重微分化されます (2 つの微分回路を介してインラインで処理されます)。出力は 60 ボルト RMS にステップアップされます。この信号は、piezo セラミック ディスク (Radio Shack タイプ) によって身体に適用されます (真鍮側が皮膚に接続され、赤いリード線が回路に接続されます)。

(様々な研究者から得た情報)

5. オーディオ信号は微分化され、すべてを一連の矩形波に切り取るセクションに渡され、40 ボルトのパルスに変換されてから、ゼロ交差検出器 (コンパレータ) に通されます。センサー電極は、チタン酸ジルコン酸鉛 (圧電ディスク) で作られた直径 1 インチのプレートです。(Extrema、米国特許番号 4,545,065)

6. オーディオ信号は 100KHz の搬送波に変調され、電力増幅されてからアンテナに送られます。アンテナの近くにいる人はイヤホンを通して音を感じるように音を感知しますが、遠くにいる人は何も聞こえず、アンテナとの接触はありません。(約 1970 年代) Laser Sound System, Inc., 438 W. Cypress, Glendale, Ca 91204。また、元の禁止された特許を所有する Intelectron Corp., 432 W 57th St., New York, NY, 10036)。

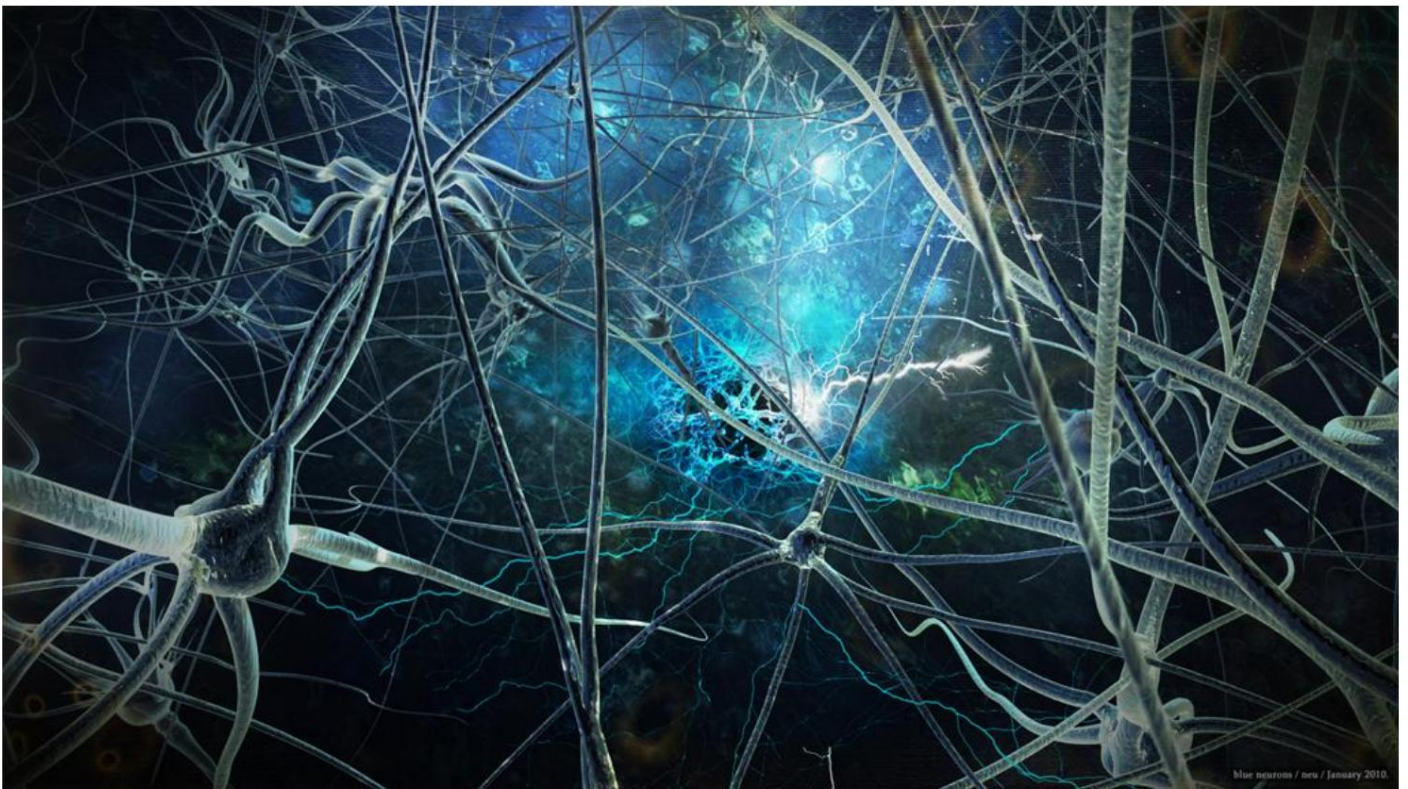
7. もう一つのユニットは小型の高出力アンプをベースにしており、音声情報を直接増幅します。矩形波や搬送波は使用されません。センサーはセラミック ベースの圧電トランスデューサーです。良質のサウンド (忠実度の高いヘッドフォンのサウンドほどではありませんが) が、多かれ少なかれ脳の真ん中から聞こえてきます。

ハイブマインド:

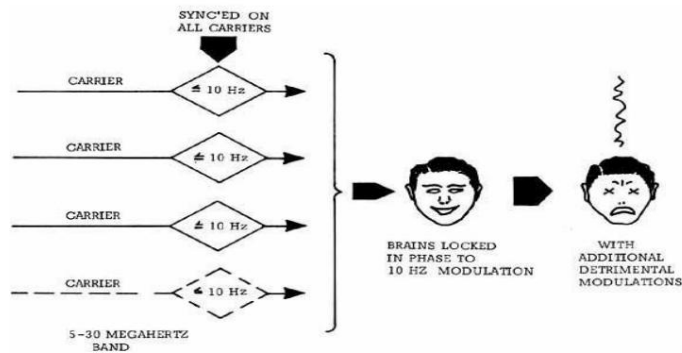
ニック・ベグッチ博士は、ニューロフォン現象を、2 人の心の間の電子的な「脳梁」と表現しています。脳梁は、個人の脳の 2 つの半球間の半透過性の橋です。ニューロフォンの複雑な構造とその生体物理的相互作用については、ニック・ベグッチ著の「Towards A New Alchemy」で説明されています。ニューロフォンを使用すると、接触なしで脳に情報を誘導できます (たとえば、パーシンジヤの研究のように、頭部の周囲に鋭くパルス状の磁場を当てるなど)。

退役中佐のトーマス・ベアデンはジョージ・ワシントン大学の原子物理学者です。彼は戦争戦略の第一人者の一人であり、ソビエトの精神工学研究の分野の専門家でもあります。トム・ベアデンとフラナガンはニューロフォンを使って2つのマインドリンクを作り上げました。脳マインドリンクの詳細は、Innergy News またはニューロフォン研究ジャーナルの今後の版で発表されます。(これらは当方では入手していません。もしどなたか見つけたら、情報のコピーをお送りください)。

ベアデン大佐は、人々が統一意識でつながっていれば、集団の総合的な精神力は指数関数的に増大することを示す数式を考案しました。少数の人々が統一意識の場で完全につながっていれば、人類の進路全体を一瞬のうちに変えることができるのです。ベアデン大佐は、ニューロフォンが意識を結びつける鍵だと信じています。



このリンクは、さまざまな方法で行うことができます。ソビエト連邦は、わずか16チャンネルのEEGマシンで個人の意識全体を拾うことができることを実証しました。その後に必要なのは、マルチチャンネルニューロフォンを使用してデータを別の人の心へ送ることだけです。ニューロフォンは、2人以上の人の心の間を電子的な脳梁になります。



ロシア人が使用した脳同調搬送システム（キツツキ実験）

生物学的に重要な変調は約 10 ヘルツです。地球の背景磁場は約 7.0 ~ 7.5 ヘルツで振動しています。

特定の ELF 周波数は、急速に無力化したり、場合によっては死に至らしめたりすることができ、戦時中の使用では、ソビエトのウッドペッカー信号プログラムで使用されたような同調法によって、捕獲された人の脳自体にそれらの周波数を直接埋め込むことができます。

ではなぜニューロフォンは国家安全保障にとってそれほど危険なのか:

フラナガンは11歳で誘導ミサイル探知機を開発し、米国に販売した。

軍人だったフラネガンは、17歳で航空パイロットの免許を取得し、ペンタゴンのシンクタンクに雇用され、後にNSA、CIA、NASA、タフツ大学、海軍研究局、非通常兵器戦争省のアバディーン実験場のコンサルタントとなった。フラネガン自身の言葉によれば、「我々はニューロフォンを逆転させ、生体システムによって生成されるスカラー波を検出できることを発見した。検出技術は、日本の本山博博士が使用したプロセスと非常によく似ている。本山博士は、チャクラとして知られる身体のさまざまなパワーセンターからのエネルギーを検出するために、ニューロフォンで使用するものと非常によく似たコンデンサ電極を使用した。」

こうして兵士同士が静かに双方向通信を行うことが可能になり、解読も不可能になった。さらに重要なことに、治安部隊は政治家やスパイの会話を盗聴できるようになった。MI6 のバリー・トローワー博士は、マイクロ波聴覚効果を使って 1969 年という早い時期にこれを実行したと私に語った。これは特許の停止と MK ウルトラのタイムラインに合致する。

さて、私たちは非常に深刻な国家安全保障問題に直面することになります。米国特許第3,647,970号（1972年3月5日）でフラナガン博士は、ニューロフォンのパルスは増幅されてトランスデューサーを駆動し、トランスデューサーはミリワットを使用して水中にパルスを誘導し、水中では数千マイル離れた場所でも通信できると述べています。



原子力潜水艦通信、シューマンを使用した定常スケーラー波を使用
共鳴。シューマン共鳴 (SR) は、地球の電磁場スペクトルの極低周波 (ELF) 部分におけるスペクトル ピークのセット
です。
マイクロ波エミッター



シューマン共振は、地球の表面と電離層によって形成される空洞内での雷放電によって生成され励起される地球規模
の電磁共鳴です。地球や他の伝播媒体を介して。あるいは、必要に応じて、トランスデューサーをラジオや他の電磁波
送信機に置き換えることもできます。フラナガンが考案したのは、低エネルギーで

検知されない定常の Scaler Wave システムにより、世界中で安全に通信できます。さらに、誰かが偶然このシステム
を見つけたとしても、それは叩く音のように聞こえ、翻訳または解読することはできません。

それ以来、CIA、NSA、MI6、その他多くのセキュリティ機関が同じシステムを使用しています。

ALL AUDIBLE SOUND COMES FROM POINT OF IMPACT WHICH MAY BE A LIVING THING - PERSON, BIRD, ETC.

ONE SIGNAL IS PURE 200.0 KHZ SOUND

NO AUDIBLE SOUND EMANATES FROM HERE

TWO 200 KHZ AIR TYPE ULTRA SOUND TRANSDUCERS

UP TO SEVERAL HUNDRED FEET

OTHER SIGNAL IS NOMINAL 200 KHZ BUT IS FREQUENCY MODULATED BY VOICE OR OTHER AUDIBLE RANGE INPUT

** CAN ALSO CARRY ULTRA SONIC HYPNOSIS, RESULTING IN UNDETECTABLE HYPNOTIC EFFECTS

ACOUSTIC HETERODYNE
AMERICAN TECHNOLOGIES CORP.
13114 Evening Creek Dr. S.
San Diego, CA 92128

<http://home.nas.net/~raven1>

ニューロフォンの後のバージョンでは、搬送波は不要になり、電話の塔、衛星、実際はあらゆるデータ媒体を使用して放送できるようになりました。ハイブマインドが出現すると、状況はさらに悪化します。

保安局は標的個人プログラムを立ち上げ、この装置はそれらの標的に使用されます。一般的な理論に反して、その多くはフリーメーソンや麻薬の売人、または彼らが雇ったり騙して協力させた私立探偵によって地元で行われています。通常のニューロフォンに搬送波システムを追加します。上記のものと似ていますが、唯一の違いは2つのトランスデューサーが必要であることです。

したがって、送信と受信に必要な180度の位相シフト回路を得るために、2つのビームがターゲット個人に発射されます。

マイクロ波聴覚効果:

マイクロ波聴覚効果は、マイクロ波聴覚効果またはフレイ効果とも呼ばれ、パルス/変調マイクロ波周波数によって誘発される可聴クリック音（または、音声変調の場合は話し言葉）で構成されます。クリック音は、受信電子機器を必要とせず、人間の頭の中で直接生成されます。この効果は、第二次世界大戦中にレーダートランスポンダー付近で作業していた人々によって初めて報告されました。

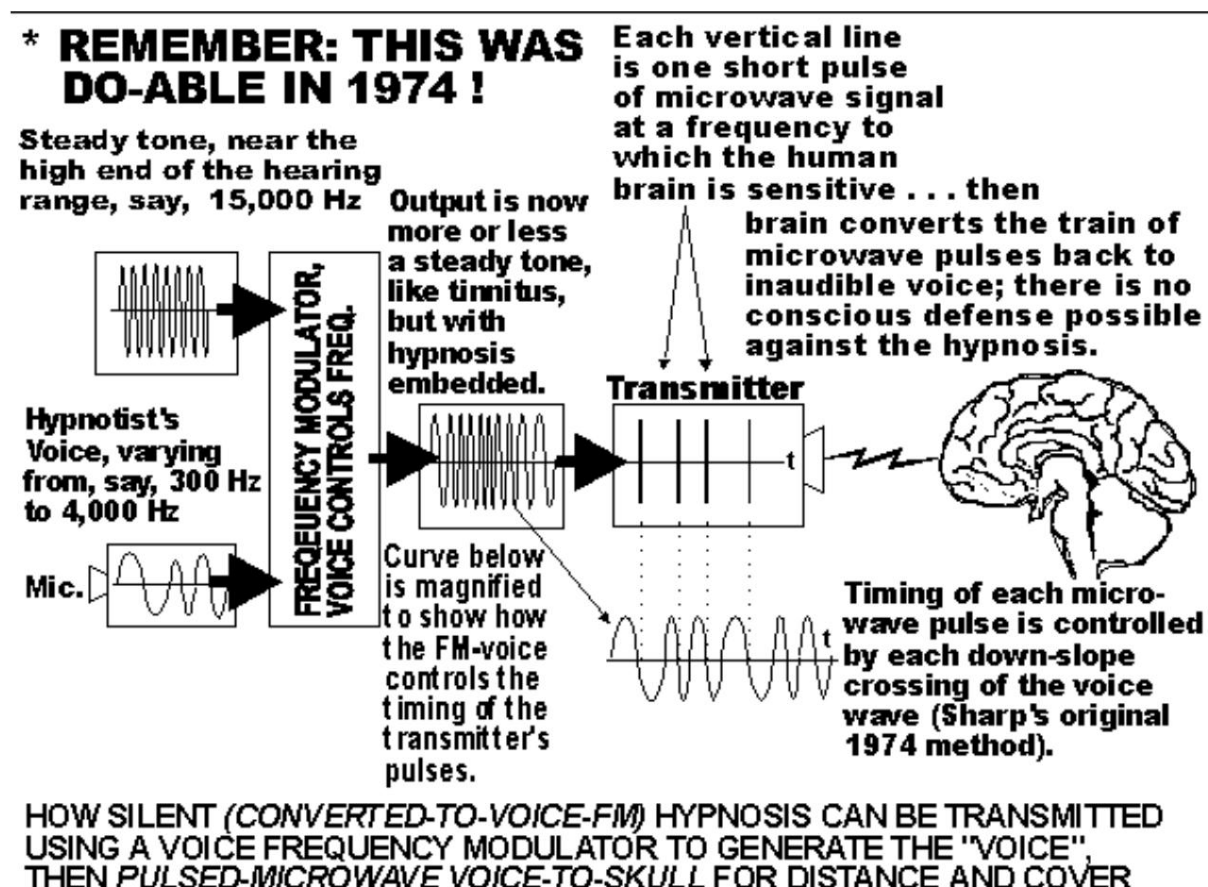
これらの誘発音は、近くにいる他の人には聞こえません。マイクロ波聴覚効果は、後に電磁スペクトルのより短い波長の部分で誘発されることが発見されました。

冷戦時代にアメリカの神経科学者アラン・H・フレイはこの現象を研究し、

マイクロ波聴覚効果の性質に関する情報を初めて発表した。https://en.wikipedia.org/wiki/Microwave_auditory_effect

パルスマイクロ波放射は一部の作業員に聞こえます。照射を受けた作業員は、カチッという音やブンブンという音などの聴覚を感知します。原因は、聴覚器官の一部が熱弾性膨張することだと考えられています。競合する理論は、干渉ホログラフィーテストの結果をそれぞれ異なる方法で説明しています。

2003年から2004年にかけて、WaveBand社は米国海軍から、遠隔操作で一時的に人員を無力化することを目的としたMEDUSA (Mob Excess Deterrent Using Silent Audio) と呼ばれる MAE システムの設計契約を受注しました。このプロジェクトは2005年に中止されたと伝えられています。https://en.wikipedia.org/wiki/MEDUSA_%28weapon%29



バリー・トロワー博士 MI6

この画像は何年も前から出回っているのですが、その内容の一部を修正したいと思います。これはニューロフォンが使われており、マイクロ波の直接ビームで蝸牛を聞くことによって行うことができます。また、バリー・トロワー博士は、1969年にマイクロ波聴覚効果を使用して、ソビエトのスパイにMI6のブリーフィングを行うためにこれを行っていました。そうは言っても、下部に正確に記載されていますが、曖昧で不正確です。

V2k、頭蓋骨への音声とマイクロ波聴覚効果、頭蓋骨への音声は無線通信の一種で、MC（対象個人のハンドラー）が会話を脳に直接送信できるようにします。

被害者の説明によると、音は頭の後ろから放射され、音波がトランシーバーのように会話を伝達しているようです。

無線信号の音の距離と強度は、頭の向きに関係なく同じままです。その応用の背後にある科学はMI6によって切望されていましたが、今回明らかにされました。

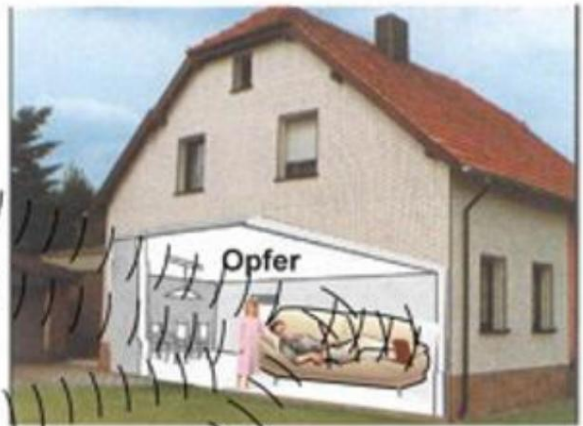
文書。真実、人間は外耳の助けを借りずに話し言葉で自分の考えを聞き、音を知覚することができるということであり、これを可能にしているのは脳の複雑さである。人間の耳が外部の音源からの音響音の周波数を検出すると、音波は外耳を介して集束され、鼓膜に当たり、神経インパルスに変換され、脳に伝わり、脳によって音/言語スピーチとして解読される。

Image of microwave radiation is pulsed into the house. "Abuse of microwave weapons against civilians inside homes."

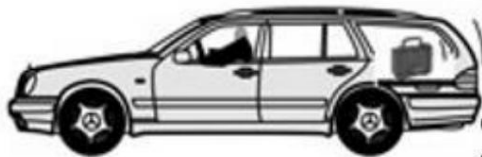


Modded or modified satellite dish for radiating microwaves

Microwave in the apartment and the antenna for radiating micro waves in the flower box.



Microwave magnetron device torturing from the briefcase in car.



Generator / condenser / flat antenna for radiating microwaves.

NOTE: NEIGHBORS ARE TOLD IT IS NON LETHAL TECHNOLOGY, BUT NON-STOP ATTACKS, WHICH MANY REPORT LEAD TO SLOW KILL FROM ONGOING RADIATION. THE EFFORTS ARE OVERSEEN FROM OPERATION CENTERS VIA REAL TIME / SATELLITE SURVEILLANCE.



THIS IS WHY SO MANY NEIGHBOR HOMES ARE SET UP USING THIS TECHNOLOGY IN THE TARGETED INDIVIDUALS COMMUNITY.

Weitere Informationen: www.mikrowellenterror.de
Interessengemeinschaft der Opfer von Elektro-Waffen

11/2005

V.i.S.d.P. Dipl.-Ing. R. Zotzmann, Dipl.-Ing. H. Zotzmann
Eulenstr. 5 - 17192 Waren (Müritze)

詳細は前述。

MCがV2k VoiceをSkullに送信する際、彼らはマイクロフォンに向かって話し、それが音声信号をニューロフォン技術と同じコード化された電気パルスに変換します。これらの無線周波数パルスは、人間の聴覚神経を迂回して聴覚神経に向けられます。

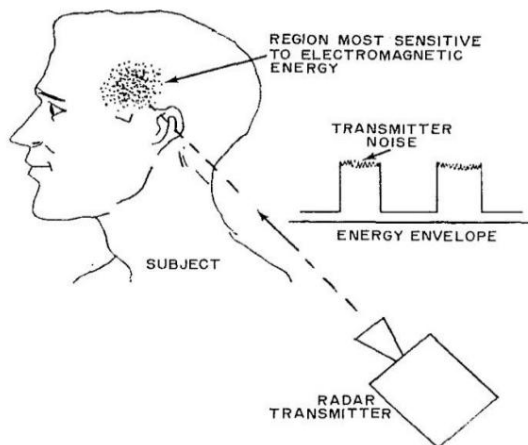


Fig. 2. Microwave susceptance area in brain.



耳から直接脳に送られ、脳は電気パルスを理解可能な音声に変換します。

および音。エンコードされた電気パルスが聴神経に直接当たるようにすることで、意図した被害者だけが接触音を聞くことが保証され、ラジオの DJ (ディスク ジョッキー) のように、MC は音量を上げたり下げたりして、何マイルも離れた対象者と通信することができます。

学者のジョセフ・C・シャープとA・フレイ博士は、ウォルター・リード陸軍研究所に在籍していたときに、音声変調マイクロ波を聴神経に送信した最初の科学者でした。聴神経を介した音の送信は20世紀半ばから実践されており、難聴者にも効果があることが証明されています。ESB (脳の電気刺激)を使用すると、対象者は刺激の周波数と振幅に応じて音を知覚できます。



DEPARTMENT OF THE AIR FORCE
HEADQUARTERS 311TH HUMAN SYSTEMS WING (AFMC)
BROOKS AIR FORCE BASE TEXAS

25 JAN 2000

MEMORANDUM FOR MARGO P. CHERNEY
1419 LATTA RD.
ADA, OK 74820


FROM: 311 HSW/JA
8005 Chennault Rd.
Brooks AFB TX 78235-5313

SUBJECT: Freedom of Information Act (FOIA) Request

1. This is in response to your FOIA request dated 27 Sep 99, case number 00-0009-HS, for copies of Communicating Via the Microwave Auditory Effect: Awarding Agency: Dept of Defense SBIR Contract number: F41624-95-C-9007 as specified in your letter.
2. The requested information is fully denied under 5 U.S.C. 552(b)(1), and DoD Regulation 5400.7/Air Force Supplement, paragraph C3.2.1.1, *Classified Records* because unauthorized disclosure of the requested information could reasonably be expected to cause damage to national security. The information is classified pursuant to Executive Order 12958.
3. Should you decide that an appeal to this decision is necessary, write to the Secretary of the Air Force within 60 calendar days from the date of this letter. Include in your appeal any reason for reconsideration and attach a copy of this letter. The appeal should be forwarded to:

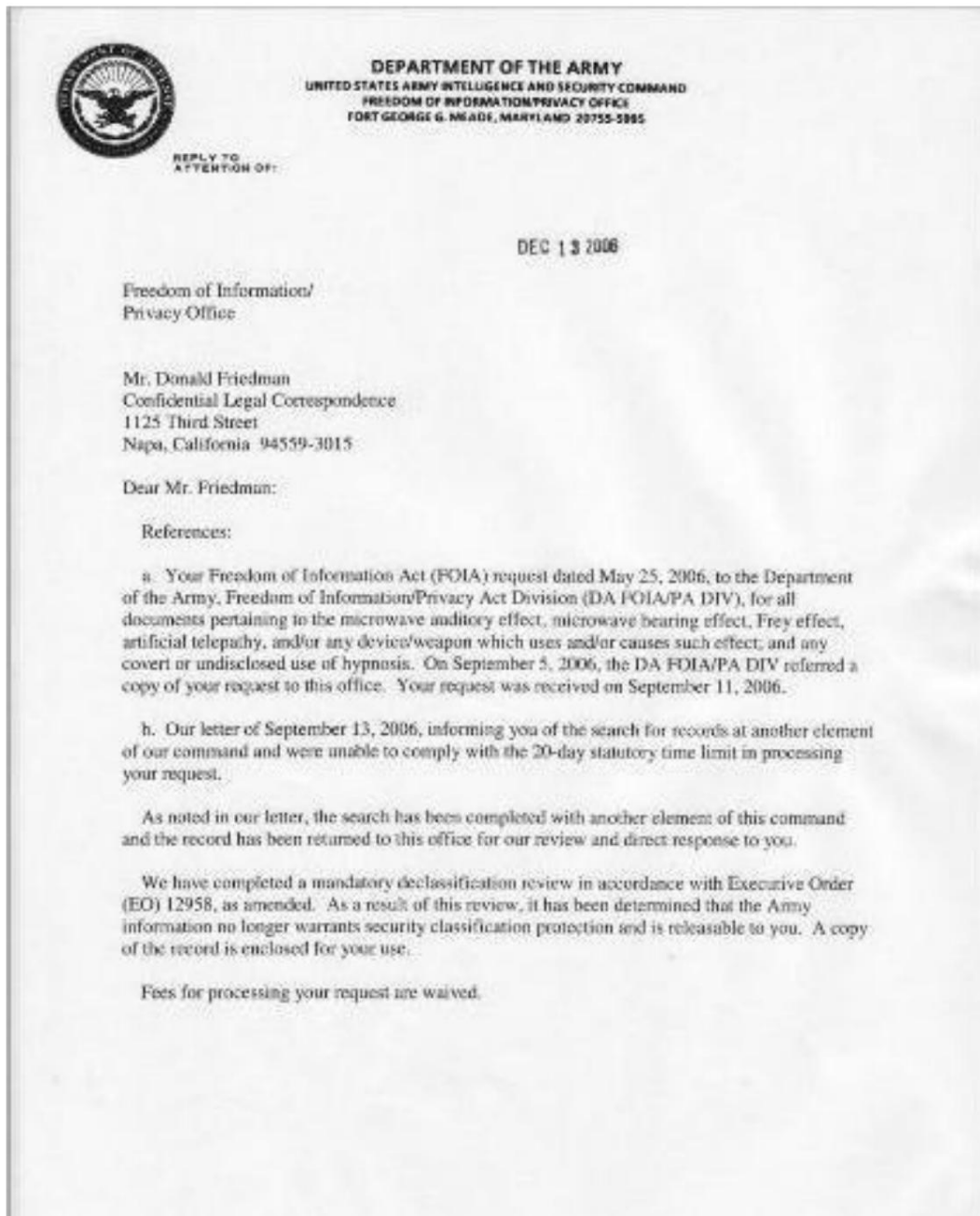
Secretary of the Air Force
THRU: 311 CS/SCSD
8101 Arnold Street
Brooks AFB TX 78235-5367

4. The cost of processing this request is waived.


RICHARD E. PRINS, Colonel, USAF
Staff Judge Advocate

マイクロ波聴覚効果の聴覚症状には、継続的なブザー音、クリック音、いわゆる「耳鳴り」などがあります。長時間使用すると、騒音の大きさや変化により、集中力の欠如、苦痛、強いイライラが生じます。

Voice to Skull は兵士向けに設計されており、司令部が無制限に通信できることを保証し、戦場で目立つ従来のイヤホン/マイク付きヘッドギアを廃止することを可能にしました。



Voice to Skull は、超能力者、宇宙人による誘拐被害者、魔女、精神分裂症患者、神の声が聞こえる人、頭の中の声に言われたから人を殺す人、地球外生命体と話せると主張する人、幽霊とコンタクトして悪魔と頻りに連絡を取る人など、増加している状況に光を当てています。これらの人々は、ターゲットにされたすべての市民が世界中のすべての政府に対して起こす千年紀の訴訟の対象にする必要があります。

MC が事実上、人間の命を奪い、超能力者を装うことができるという認識は、ばかげているように思える。明らかなのは、諜報員や医療従事者がこの技術を習得しようと懸命に努力しており、その配備を確認する MCV の数が増えているということだ。

これは英国政府の文書です:

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/17495664>

健康物理学2007年6月;92(6):621-8.

人間と動物によるマイクロ波パルスの聴覚 :影響、メカニズム、閾値。

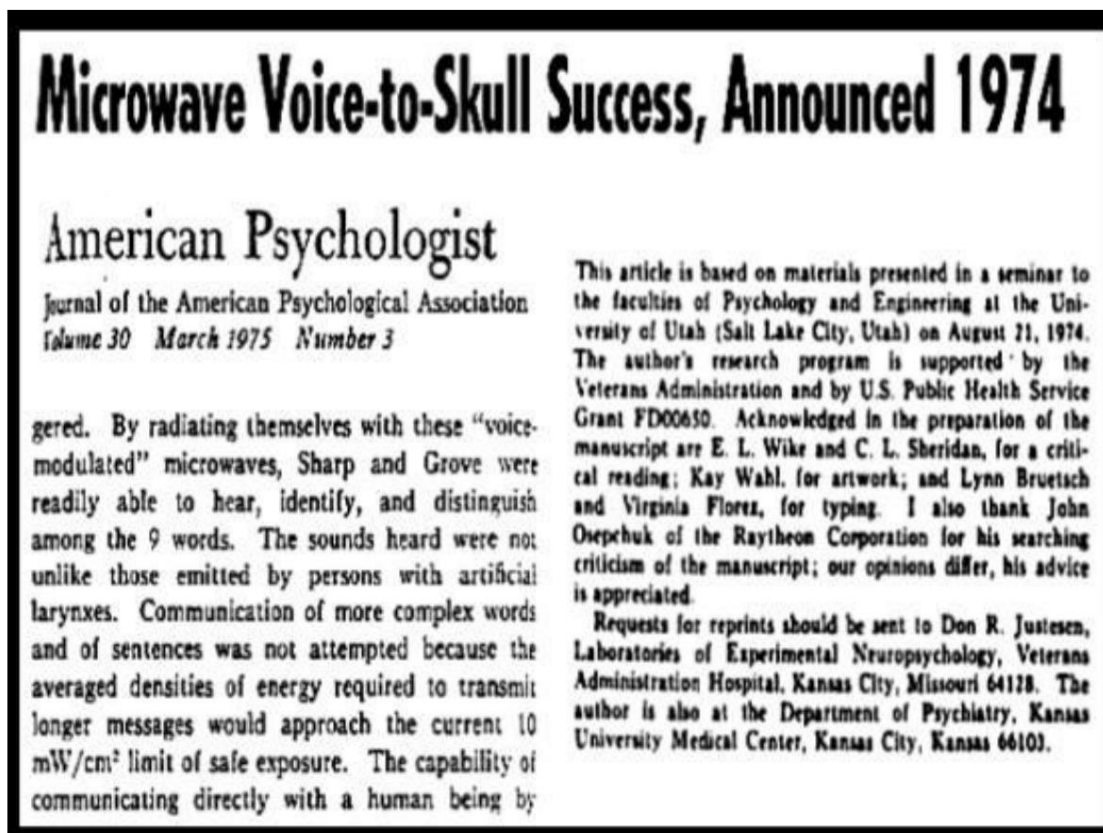
Lin JC1、Wang Z.著者情報

抽象的な

マイクロ波パルスの聴覚は、人間の聴覚で通常遭遇する空気伝搬音または骨伝導音エネルギーに対するユニークな例外です。聴覚装置は通常、可聴周波数範囲の空気伝搬音または骨伝導音波または音圧波に反応します。

しかし、マイクロ波パルスの聴覚には、数百 MHz から数十 GHz の周波数範囲の電磁波が関係しています。電磁波 (例: 光) は見えても聞こえないため、マイクロ波パルスの聴覚知覚の報告は、驚きと興味をそそるものでした。さらに、これは連続波マイクロ波放射に関連する反応とは際立った対照をなしていました。

実験的および理論的研究により、マイクロ波聴覚現象は、マイクロ波パルスが中枢神経系の聴覚神経生理学的経路に沿った聴神経またはニューロンと直接相互作用することによって生じるのではないことがわかっています。代わりに、マイクロ波パルスは頭部の軟部組織によって吸収されると、音圧の熱弾性波を放射し、骨伝導によって内耳に伝わります。そこで、通常の聴覚に関与するのと同じプロセスを介して蝸牛受容器を活性化します。



Microwave Voice-to-Skull Success, Announced 1974

American Psychologist
Journal of the American Psychological Association
Volume 30 March 1975 Number 3

gered. By radiating themselves with these "voice-modulated" microwaves, Sharp and Grove were readily able to hear, identify, and distinguish among the 9 words. The sounds heard were not unlike those emitted by persons with artificial larynxes. Communication of more complex words and of sentences was not attempted because the averaged densities of energy required to transmit longer messages would approach the current 10 mW/cm² limit of safe exposure. The capability of communicating directly with a human being by

This article is based on materials presented in a seminar to the faculties of Psychology and Engineering at the University of Utah (Salt Lake City, Utah) on August 21, 1974. The author's research program is supported by the Veterans Administration and by U.S. Public Health Service Grant FDO0650. Acknowledged in the preparation of the manuscript are E. L. Wike and C. L. Sheridan, for a critical reading; Kay Wahl, for artwork; and Lynn Bruetsch and Virginia Florez, for typing. I also thank John Osepchuk of the Raytheon Corporation for his searching criticism of the manuscript; our opinions differ, his advice is appreciated.

Requests for reprints should be sent to Don R. Justesen, Laboratories of Experimental Neuropsychology, Veterans Administration Hospital, Kansas City, Missouri 64128. The author is also at the Department of Psychiatry, Kansas University Medical Center, Kansas City, Kansas 66103.

組織の加熱を除けば、マイクロ波聴覚効果は、相互作用のメカニズムが知られている熱弾性理論によるマイクロ波放射の最も広く受け入れられている生物学的効果です。この論文では、マイクロ波聴覚の現象、メカニズム、電力要件、圧力振幅、および聴覚閾値について説明します。特に、無線通信フィールドと磁気共鳴画像 (MRI) コイルへの人間の曝露に重点を置いています。

私はあらゆる側面を扱った多くの科学文書を持っており、これらも TIA の Web サイトに追加する予定です。また、このテーマに関する無料の書籍も追加する予定です。

この文書を裏付ける証拠はたくさんあるので、これは史上最も暴露された秘密であるに違いない。誰でも簡単に安価に作れるし、政府が大規模に計画していることは間違いない。

みんなを操っている？私の調査によると、政府内で治安機関で何が起きているかを知っている人はほとんどおらず、彼らは真実を隠している。だから標的は治安機関であり、私が以前に言ったように、治安機関はすべての国会議員の情報をもち、彼らの行動を阻止するメイソンによってコントロールされている。自分たちが何をしているのか全く分かっていない、この狂った愚か者たちの予算を取り上げるべき時が来た。



では次のステップは何でしょうか？

すべての政府は大きな計画を立てており、そのシステムを自国民に対して利用しています。これは犯罪であり、国民が行動を起こすことを可能にします。法と秩序、正義がなければ、当然無政府状態になります。TIAの目的は、これを阻止し、政府と治安機関に真実を明らかにし、標的の人々に賠償金を支払うように強制することです。

短期的には、ターゲット個人協会は信号をブロックするデバイスを作成する予定です。これを行うには、すでに2つの方法があります。1つは周波数放送妨害装置を使用する方法で、もう1つは、どのバージョンのV2kが使用されているかに応じて、着信信号を完全に無効にするカウンターシステムを使用する方法です。これらのデバイスの作成方法は既に把握しており、入手次第、情報を公開するか、デバイスを利用できるようにする予定です。

信号をブロックできる必要があるのは、近い将来、現在標的の個人に対する拷問として使用されているものが、現在の電話システムのような一般的な合成テレパシーシステムになるからです。ニューロフォンの科学を通じて私が学んだことから、そのシステムは音声だけでなく視覚も備えている可能性が非常に高いです。

V2k Voice to Skull デバイスを、使用者の許可なく使用することはすでに違法です。この新しい技術が開花するには、これを施行する必要があります。集団ストーキングでこのデバイスが実行される方法は、人を傷つけ、死や癌、その他多くの病気を引き起こす可能性があります。私はこれを支持する科学論文を持っており、ジョン・ホール博士は今後の進め方についてアドバイスをしてくれています。

つまり、それは人に対する暴行であり、殺人未遂は、標的となった個人に対する告発である。協会は、ほとんどの場合、V2Kギャングストーキングの容疑者全員に対して訴訟を起こしている。

地元で、騙されて違法ではないと言われた人々が行う行為です。フリーメイソンがギャングストーキングを始めたのは、もともとリングフェンシングとして始まったもので、地元の犯罪者や麻薬の売人を使って、仲たがいた人や意見の相違がある人、またはビジネスを盗もうとした人をターゲットにしていたことがわかっています。

これは今や、麻薬マフィアが関与する制御不能な大ビジネスであり、私の場合のように、フリーメイソンが経営しています。彼らは私のビジネスを盗み、ジュリアン・アサンジにやったのと全く同じことを私にもしました。彼らは私のビジネスから40億ポンドを盗んだため、偽の事件をでっち上げて私の人生を台無しにしました。

ギャングストーキングについて私に最初に話してくれたのは、上級メイソンでした。彼は他人のギャングストーキングに関与することに反対し、そのために標的にされました。私は最初、彼をスタン・カモンズとして知っていましたが、これはメイソン・カンツのアナグラムであることがわかりました。彼は、彼らが彼の電話を盗聴し、彼のすべての取引を盗み、すべての隣人に嘘の話をしていたことを私に話しました。そのプロセスの詳細については、TIA Web サイトのメイソン・ギャングストーキングを参照してください。

これはEUですでに施行されているマイクロ波放射法と放射線放射法の濫用です。私たちはこの装置を発明した人々や、現場でこの装置を使用した治安機関の関係者全員と連絡を取っており、これらの人々は私たちの最初の集団訴訟で証言する予定です。

真相を究明します。他のグループとも協力して取り組むことになるかもしれません。



彼らは賢い人なら誰でもターゲットにします。私が言っているのは、ミュージシャン、芸術家、科学者、発明家など、自由な思考力を持つ知性を持った人、そして彼らについて発言するほぼすべての人です。

メイソンは、何年もの間、下級犯罪者を使って人々を困り込み、集団ストーキングを行ってきました。これが食物連鎖の上位にまで広がり、今ではこの世界のマフィアにとって大きなビジネスになっています。最近では、私の場合のように、スペインのイギリス麻薬マフィアはメイソンのロッジからストリートギャングまで運営されています。メイソンは、治安部隊を使って世界中で麻薬取引を行っていますが、治安部隊はすべてメイソンで、もはや国民を代表していません。

あなたが標的の個人である場合、協会に参加して私たちと話し合ってください。世界中のすべての政府と治安機関、フリーメイソン、NATO などの特定されているその他の組織に対する私たちの法的措置に参加できる可能性があります。これらすべての組織と政府は抑制される必要があります。

彼らは、自分たちや体制の支援者に反対する者を標的とする偽りの聖戦に身を投じる、制御不能で規制のない狂人です。私たちは今、装置を作り、法廷でそれを実証できるので、すべて終わりです！問題は、彼らがいつ逮捕されるかだけです！

政治家やその他の人々が知っていると思いませんか？ 治安機関は真実を隠しています。彼らはすぐに多くの訴訟に直面し、請求書を支払うために彼らが住んでいる国を売却しなければならなくなるでしょう。ターゲット個人協会に参加して、世界を変えるお手伝いをしてください。世界はひとつ、コミュニティはひとつです！ www.targeted-individuals.co.uk

この記事の作成に協力し、率直に意見を述べてくれたパトリック・フラナガン博士に感謝します。MI6のバリー・トロワー博士、ニック・ベギッチ博士、CIAのロバート・ダンカン、ジョン・ホール博士、マグナス・オルソン、NSAのウィリアム・ビニー、NSAのカーク・ウィーベ、ドワイト・マンガム、アルフレッド・ランブレント・ウェブレにも感謝します。皆さんは私と話し、技術をまとめるのに必要な理解につながる情報を提供してくれました。これでデバイスを組み立て、法廷で実演することができます。

URL:

http://www.targeted-individuals.co.uk/neurophone_support_information_1

http://www.targeted-individuals.co.uk/neurophone_support_information_2

<http://www.rexresearch.com/flanagan/flanagan2.html>

<http://www.rexresearch.com/flanagan/neuroph.htm>

V2k (ボイス・トゥ・スカル) 2017/03/28

ターゲット個人協会 – 著者: ゲイリー・オーウェンズ

ゲイリー・オーウェンズ氏がまとめた記事を書き、技術を解説しました。私たちはインターネット上のあらゆる情報源を利用して、技術を解説するために必要なあらゆる情報を収集し、まとめました。情報源は下部にリストしています。漏れている情報があればお知らせください。修正いたします。



The banner features a blue ribbon on the left with the text "Targeted Individuals Association" written vertically. In the top left corner is the TIA logo. The main text reads "TARGETED INDIVIDUALS ASSOCIATION" in large, bold, black letters. To the right, it says "Together Our Voices Will Be Heard! We are lobbying every Government in the world to ban V2K (Voice to Skull), Gang Stalking, DEW (Direct Energy Weapons) & Mind Control!". Below this, it states "If your a Targeted Individual, you need to join with us, together we will Beat this! We are united in the fight, The T I A will take the fight To their doorstep, help us end it now!". At the bottom, the website "www.targeted-individuals.co.uk" is displayed. The background is a dark blue and purple digital-themed graphic with glowing lines and data points.

